

2009年度

講義計画

桃山学院大学

國

計

義

講

科目名	クラス	講義区分
経営学特別講義－日本の経営実務 <秋>		
金 光 明 雄	2単位	

【講義概要】

From the experience of accounting, auditing and tax profession, we have faced a lot of comparative Japanese business practice with western countries. In this lecture, we demonstrate some unique cases of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax, but also Japanese business culture.

Although there are few differences in theory between Japanese accounting and international accounting; however, in practice there are still some big differences in how to apply accounting principles. We introduce some examples of such differences with basic concepts as follows:

- 1 Accounting Practice
 - 1.1 Accounting principles
 - 1.2 Basic financial statements
 - 1.3 Reporting
- 2 Auditing Practice
 - 2.1 Auditing principles
 - 2.2 Responsibility
 - 2.3 Independence

Japan is well known as having relative high corporate income tax rate on corporations. Currently the effective corporation income tax rate can be calculated at 40% -42% in the aggregate. Most of other OECD member countries in North America and in Europe set the effective tax rate in the range of 30% -35%.

The lecture touches on how the Japanese companies handle the tax compliance work and what sort of management considerations are taken to control the tax cost.

- 3 Tax Practice
 - 3.1 Introduction to corporate income taxes in Japan
 - 3.2 Tax administration by the national tax authorities
 - 3.3 Tax planning to control tax cost by the management of taxpayer

【学習目標】

The purpose of this lecture is to cultivate your understanding of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax, but also Japanese business culture.

【講義計画】

- 第1回 Introduction to corporate income taxes in Japan
- 第2回 Tax administration by the national tax authorities
- 第3回 Tax planning to control tax cost by the management of taxpayer in Japan
- 第4回 Current topics on international tax matters
- 第5回 Business Practice in Japan, compared with western countries
- 第6回 Accounting and Auditing Practice in Japan
- 第7回 Management Assessment and Audit concerning Internal Control Over Financial Reporting ("J-SOX")
- 第8回 Semi annual financial statements
- 第9回 Consolidated financial statements
- 第10回 Fraud and audit failure
- 第11回 Accounting standards in major overseas countries and current status of Japan GAAP
- 第12回 Major differences between IFRS and Japan GAAP
- 第13回 Further movement of Japan GAAP (Convergence into IFRS)
- 第14回 Sum

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【教科書】

Handout materials will be provided at each class.

【備考】

英語による講義です。
 インテグレーション科目
 <02~08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営学特講－ブランド・マネジメントを学ぶ－P&G式 <秋>		
和 田 浩 子 坂 手 恭 介	2単位	

【講義概要】

- ・マーケティングに世界的定評のあるP&G社を例にとり、ブランド・マネジメントの概要と戦略立案、消費者理解のためのマーケットリサーチなどの主要な手法を講義する。多彩な分野のゲスト講師による講義を提供する。
- ・学生諸君には、実際のブランドマーケティングを経験するために、ブランド育成対象を選び、グループワークを通じて、ブランドマーケティングの戦略と計画の提案をさせる。
- ・グループワークには、市場調査や、データ分析、CM制作、プレゼンテーションなどのマーケティングの現場で行われる実践的な行動を体験させる。その際に、各段階で、コメント・指導をする。マーケティングのキャリアに興味をもたせ、学生のプロフィールにとって、この講義を取ったことがアドバンテージになるようにする。

【学習目標】

P & G式ブランド戦略の実践的学習。

【講義計画】

- 第1回 マーケティングとブランドマネジメント制
- 第2回 貧乏マーケティングと金持ちマーケティング①
- 第3回 貧乏マーケティングと金持ちマーケティング②
- 第4回 グローバルブランドマーケティング
- 第5回 グループワーク 桃山学院大学のブランドエクイティ リサーチ設計
- 第6回 グループワーク 桃山学院大学のブランドエクイティ 分析
- 第7回 広告戦略と広告制作と広告代理店
- 第8回 グループワーク 桃山学院大学のマーケティング戦略①
- 第9回 グループワーク 桃山学院大学のマーケティング戦略②
- 第10回 グループワーク マーケティング計画作成
- 第11回 グループワーク 広告制作
- 第12回 マーケティングプラン発表と投票 (ベストプラン選出)
- 第13回 グループワーク 最終プレゼン準備
- 第14回 学長/経営学部長へプレゼン
- 第15回 総合演習 (制作物提出)

【成績評価の方法】

- レポート 60% 出席 40%
1. 講義の出席状況および取り組み姿勢。(総評価の40%に相当)
 2. レポート (マーケティング計画書) 提出および発表を単位取得条件とする。(同60%に相当)

【教科書】

和田浩子 P&Gのマーケティングで学んだこと トランスナルト・ジャパン

【参考文献】

和田浩子 『P&G式世界が欲しがるとる人材の育て方』ダイヤモンド社。

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－英文簿記会計 <春>	
金 光 明 雄	2単位

【講義概要】

ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。

国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、毎年数多くの受験生を出している。受験者は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。

本講義は、このBATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されている。講義を担当するのは、国際的な会計事務所の専門家であり、様々な実務情報も踏まえた内容となっている。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、「商業簿記」を履修済みであること、ないし日商簿記検定試験3級合格を履修条件としている。

国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあわせて、「経営学特別講義（日本の経営実務）」を受講することを勧める。

【学習目標】

本講義は、BATIC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上を目指す。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義内容説明）
- 第2回 Basic Concept of Bookkeeping, Business Transactions
- 第3回 The Accounting Cycle and Controlling System, Accounting Structure, Recording Financial Transaction
- 第4回 Adjusting and Closing Entries, Preparation of the Worksheet, Financial Statements
- 第5回 Financial Accounting and Reporting, Financial Statements
- 第6回 Cash, Account Receivable
- 第7回 Inventories, Property, Plant and Equipment
- 第8回 Intangible Assets, Investments
- 第9回 Liabilities, Stockholder's Equity
- 第10回 Translation of Foreign Currency Statements, Statement of Cash Flows
- 第11回 Business Combinations
- 第12回 Interim Financial reporting and Segment Information, Accounting Change and Correction of Errors, Time Value of Money
- 第13回 総復習
- 第14回 期末試験

【成績評価の方法】

毎回実施する小テスト、学期末試験の成績、および出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

東京商工会議所 BATIC subject 1 公式テキスト 東京商工会議所
東京商工会議所 BATIC subject 1 問題集 東京商工会議所

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。
インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－企業人に学ぶ <秋>	
武 田 久 義	2単位

【講義概要】

現在の社会において、保険は広く社会に浸透し、生活の隅々にまで関係をもっている。しかし、ほとんどの人は保険に関しては十分な知識しか持ち合わせていない。それは、保険の仕組みが比較的難解であることと、近年きわめて多様な保険が登場していること等によるものである。

この授業では、生命保険、損害保険のうちの代表的なものについて説明する。講師は、原則的に毎回異なる。全体の総括等は、武田久義が行う。

【学習目標】

民間の保険会社を取り扱っている主な保険について、基本的に理解する。とくに、講義で取り上げられた保険についての理解を深める。

【講義計画】

- 第1回 （講義計画）・・・順序は変更することもある。
全体の説明等
- 第2回 保険に関連する法律、保険約款の読み方
- 第3回 生命保険事業
- 第4回 生命保険
- 第5回 医療保険
- 第6回 生活と保険－私的年金を中心に－
- 第7回 生活と保険－介護関連保険－
- 第8回 損害保険事業
- 第9回 自動車保険①
- 第10回 自動車保険②
- 第11回 傷害保険
- 第12回 火災保険
- 第13回 その他の保険
- 第14回 全体のまとめ

【成績評価の方法】

出席とレポートによる。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

〔07E・B生〕のみ履修可
読替一覧参照の事。
インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
経営学特講－空間情報システム論 <8月集中>		
森田孝彦	2単位	

【講義概要】

本講義においては、日米のビジネススクールにおいて「コンピューターシステムの先駆的利用、活用の事例」とされている、日本のコンビニエンスチェーン主宰会社の事例を用いて、その歴史及びコンピューターシステムの役割、及び、コンピューターシステム構築時に留意すべき事項を学ばせる。

【学習目標】

- ①既に社会インフラとなっているコンビニエンスストアのコンピューターシステムの理解
- ②社会環境の変化に対応できる思考方法の習得
- ③チーム内の自己の役割認識と新ビジネスへのチャレンジ精神の醸成

【講義計画】

- | | | | | |
|------|-----|----|--------------------------|-------------------|
| 第1回 | 1日目 | 1限 | 本講義の内容、進め方、成績評価について | |
| 第2回 | 1日目 | 2限 | 情報システム活用の背景 | ①日本のコンビニエンスストアの歴史 |
| 第3回 | 1日目 | 3限 | 情報システム活用の背景 | ②フランチャイズチェーンの要点 |
| 第4回 | 1日目 | 4限 | 情報システム活用の背景 | ③通信ネットワークとシステム機器 |
| 第5回 | 2日目 | 1限 | 企業の戦略 | ①店舗展開の地域戦略 |
| 第6回 | 2日目 | 2限 | 企業の戦略 | ②新商品開発の戦略 |
| 第7回 | 2日目 | 3限 | POS（販売時点情報）システムとバーコードの知識 | |
| 第8回 | 2日目 | 4限 | 販売データを活用した商品発注の考え方 | |
| 第9回 | 3日目 | 1限 | 販売データ取得以外のバーコードの活用 | ①公共料金収納業務 |
| 第10回 | 3日目 | 2限 | 販売データ取得以外のバーコードの活用 | ②会計システム |
| 第11回 | 3日目 | 3限 | 社内の情報共有システム | |
| 第12回 | 3日目 | 4限 | 店舗経営指導員への情報共有システム | |
| 第13回 | 4日目 | 1限 | コンピューターシステム構築時に考えるべき視点 | |
| 第14回 | 4日目 | 2限 | 本講義のまとめ及び補足 | |
| 第15回 | 4日目 | 3限 | 評価試験 | |

【成績評価の方法】

試験 50% 出席 50%

【教科書】

講義時にプリント資料を配布する

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営学特講－国際ビジネス・変化と対応 <春>		
北條弘司	2単位	

【講義概要】

昨年の米国発の国際金融危機の影響から、企業業績の劇的な変化、新たなグローバル競争の模索、資本移動の質的転換など、国際ビジネス環境は劇的なパラダイム転換の途上にあり、変化の状況を理解し対応策を学ぶ。

講義では、海外販路の開拓・販売促進・現法経営 などを実践的に学び、国際経営学の理論やマーケティングの定説が実際のビジネス活動に紐込まれている状況の理解を進め、国際ビジネスを展開する上での課題への理解力と対応能力を培う講義としたい。

【学習目標】

現実の国際ビジネス環境の変化と講義のタイムラグを少なくするため、折々に報道される国際ビジネストピックの解説、グローバル市場でのビジネス展開で生じる問題点の解決手法などの解説も行う。これにより『国際ビジネスの現場の議論に参画できる国際人』の育成を支援したい。

【講義計画】

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 1. 国際ビジネスの基礎：
*なぜ国際ビジネスを学ぶ必要があるか |
| 第2回 | *国際金融危機、パラダイム転換 |
| 第3回 | *対外直接投資、日本の貿易相手 |
| 第4回 | 2. 異文化接触と国際経営環境：
*文化の違い、コミュニケーション・コンテクスト |
| 第5回 | *異文化経営、組織文化、海外拠点の特性 |
| 第6回 | *事例研究1：家電各社の輸出マーケティング |
| 第7回 | *海外拠点の組織戦略 |
| 第8回 | 3. 国際ビジネス展開：
*グローバル・マーケティング、ブランド構築 |
| 第9回 | *事例研究2：中国進出した日系企業 |
| 第10回 | *サービスマーケティング |
| 第11回 | *競争戦略1：価格戦略、企業通貨 |
| 第12回 | *競争戦略2：SWOT分析、PPM、SCM |
| 第13回 | 4. 国際経営資源管理：
*予算計画、国際財務連結、財務諸表 |
| 第14回 | *国際人的資源管理、業績評価、海外駐在員 |
| 第15回 | *期末試験 |

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 30% 出席 20%
出席への配点は、質問などでの授業への参加の程度とする。

【教科書】

教科書は使用しない。講義時にレジюме・必要資料を配布する。

【参考文献】

- *理論とケースで学ぶ国際ビジネス（新版）江夏健一・桑名義晴/編著 同文館出版2006/11
- *国際経営（国際ビジネス戦略とマネジメント）根本 孝・茂垣広志 編著 学文社 2006/9
- *ゼミナール経営学入門第3版 伊丹敏之・加護野忠男著 日本経済新聞出版社 2003/2

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－証券市場と業界の現状と展望 <秋>	
松尾 順介	2単位

【講義概要】

本講義は、証券界で活躍中の第一線の実務家を講師に招き、証券市場と証券業界の現状と展望について講義を行う。講師陣には、証券各社、証券取引所、証券関連団体の担当者を招いている。各講師陣は、担当している業務分野の内容や現状を紹介した上で、所属会社の特色や競争優位性を説明し、今後の展望を提示する。さらに、証券市場や投資について、知っておくべき知識や理論についても実務的な観点から解説する。

【学習目標】

本講義の目的は、近年銀行や証券会社など金融系への就職志望者が増加していることを考慮して、金融業界の実情に触れる機会を提供することにある。したがって、金融系志望者にとって、本講義は有益であることは間違いない。また、そうでない学生にとっても、企業の財務担当者や個人投資家として、将来証券市場や証券会社とかわかることが予想されるため、本講義の内容は有益であろう。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 証券業界の概要
- 第3回 アナリストの役割
- 第4回 証券営業
- 第5回 証券引受業務
- 第6回 M&A関連業務
- 第7回 プリンシパル投資業務
- 第8回 証券化業務
- 第9回 投資ファンド運用業務
- 第10回 信用取引と証券金融
- 第11回 デリバティブ取引と取引所
- 第12回 不正取引の禁止と取引所の自主規制業務
- 第13回 金融証券行政の現状と課題
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 期末テストで評価するが、質問カードの評価を加点する。出席点は一切考慮しない。

【参考文献】

日本証券経済研究所編『詳説 日本の証券市場2004年版』日本証券経済研究所
 証券広報センター編『証券市場2005』中央経済社
 東京証券取引所編『入門 日本の証券市場』東洋経済新報社
 川村雄介著『最初に読みたい株の教科書』朝日新聞社
 川村雄介著『最新証券市場』財経詳報社
 証券経営研究会編『金融システム改革と証券業』日本証券経済研究所

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。
 インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－地域企業の経営実践を学ぶ <秋>	
今木 秀和	2単位

【講義概要】

この講義は経営学部と泉大津商工会議所との共同企画による講義であり、経営者の後継者や起業家を目指す学生を対象としたキャリア教育を実現する目的で開講する。

経営学を勉強するには、これまで蓄積されてきた理論だけではなく、実際に企業がどのように経営を行っており、どのような課題を持っているのかについて把握することが重要である。また経営実践を知ることは、将来企業に就職する、起業を志す、家業を継ぐなどといったキャリアを考える上で有用である。特に「大学を取り巻く地域にはどのような産業があるのか」「現実の企業経営がどのように行われているのか」「経営者はどのような経営上の悩みや課題を抱えているのか」「将来起業するにはどのようなことをしなければいけないのか」といった問いに興味を持つ学生に受講を薦める。

【学習目標】

本講義では、地域企業の経営者を招聘し、実際に企業においてどのような取り組みや課題を持って業務を行っているのかについて理解するのが目的である。

実務家を招聘するため、週一回二時間連続の講義（5限、6限）を行う。また講師とのインタラク션을図るために、少人数であることが望ましいと判断している。受講に際しては予備登録を行い、面接（課題）により担当教員が選抜する。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 南大阪地域の産業について
- 第3回 既存商流崩壊への挑戦①
- 第4回 既存商流崩壊への挑戦②
- 第5回 創業百年の毛織物会社、私はこう引き継ぎました。あなたなら①
- 第6回 創業百年の毛織物会社、私はこう引き継ぎました。あなたなら②
- 第7回 三現主義（現場・現実・現物）の会社経営シミュレーション①
- 第8回 三現主義（現場・現実・現物）の会社経営シミュレーション②
- 第9回 世界の食料事情を背景とした企業アイデンティティの創造戦略①
- 第10回 世界の食料事情を背景とした企業アイデンティティの創造戦略②
- 第11回 地元の経営実践に関するレポート作成演習①
- 第12回 地元の経営実践に関するレポート作成演習②
- 第13回 地元の経営実践に関するレポートの発表および講義の総括①
- 第14回 地元の経営実践に関するレポートの発表および講義の総括②

【成績評価の方法】

講義の出席状況および取り組み姿勢により評価する。ただしレポート提出および発表を単位取得条件とする。

【備考】

<02～08生>は読替一覧参照の事。
 インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－日本の文化と社会 <秋>	
金 本 伊津子	2単位

【講義概要】

This course presents a descriptive introduction to contemporary Japanese culture and society, and welcomes anyone who would like to clear the mystique of Japanese culture.

【学習目標】

This course offers some concepts that will enable you to understand and communicate with Japanese people. The lectures will be given in English.

【講義計画】

- 第1回 Introduction (Course goals and approach) , Geography
- 第2回 Ethnocentrism and cultural relativism
- 第3回 Discussion on the video, "The Japanese Version"
- 第4回 Japanese adaptation of foreign cultures
- 第5回 Minority in Japan
- 第6回 Discussion on the video, "Struggle and Success: African American experience in Japan"
- 第7回 1st quiz
- 第8回 Occupation, work life and economy
- 第9回 Japan's economic success
- 第10回 Educational system in Japan
- 第11回 Japanese religion
- 第12回 Discussion on the video, "Shinjuku Boys"
- 第13回 Japanese communication style
- 第14回 "Gaijin" : Japanese pattern of communication with foreigners
- 第15回 2nd quiz

【成績評価の方法】

There will be a take-home final essay examination. And there will also be two quizzes given in class.

The percentage of the final grade for each of the requirements will be; a take-home essay examination 25 %, quizzes 50%, attendance and participation 25%

【備考】

There will be no make-up exams or quizzes except for unusual, well documented circumstances.
英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－ビジネスと文化 <春>	
三 宅 亨	2単位

【講義概要】

With the coming of the 21st century, the world is changing more rapidly than ever. Steadily advancing IT technology is changing our society, industry and lifestyles. In addition, ongoing globalization requires better communication closer cooperation across cultures among other things.

In this class, a wide range of topics will be taken up for those who aspire to be "citizens of the world." The class will be taught by different faculty members each week, and conducted entirely in English. Students are encouraged to participate in lively discussions.

【学習目標】

To understand business and culture in the world with an emphasis on Japanese customs and practices. This will give the students a good opportunity to better understand Japanese society as well as the world.

【講義計画】

- 第1回 1. Introduction of the course
2. globalization and english
- 第2回 Postwar Development of the Japanese Economy
- 第3回 Financial Industry and Information Systems in Japan (1)
- 第4回 Financial Industry and Information Systems in Japan (2)
- 第5回 Entertainment Business in Japan
- 第6回 Steel Industry
- 第7回 Management System in Japan
- 第8回 Interfirm relationship in Japan
- 第9回 Human Resources Management in Japanese Firms
- 第10回 Nano Technology Business
- 第11回 Introduction to Cost Management
- 第12回 Japanese Communication Style
- 第13回 Japanese Culture and Japanese Companies
- 第14回 Towards Symbiotic Multicultural Society
- 第15回 Review

【成績評価の方法】

レポート 75% 出席 25%

1. Strict attendance is required.
2. In place of the final examination, the students are required to submit at least three academic papers written in English on the topics presented during the course.

【教科書】

No textbooks are used in this course. Handouts will be provided in class instead.

【参考文献】

To be announced in class.

【備考】

英語による講義です。
インテグレーション科目
<02～08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営学特講－保険総合講座 <秋>	
武田 久義	2単位

【講義概要】

現在の社会において、保険は広く社会に浸透し、生活の隅々まで関係をもっている。しかし、ほとんどの人は保険に関しては不十分な知識しか持ち合わせていない。それは、保険の仕組みが比較的難解であることと、近年きわめて多様な保険が登場していること等によるものである。

この授業では、生命保険、損害保険のうちの代表的なものについて説明する。講師は、原則的に毎回異なる。全体の総括等は、武田久義が行う。

【学習目標】

民間の保険会社を取り扱っている主な保険について、基本的に理解する。とくに、講義で取り上げられた保険についての理解を深める。

【講義計画】

第1回 *順序は変更することもある。

総合ガイダンス

第2回 生活設計と生活保障手段

第3回 生命保険の仕組み

第4回 生命保険会社の仕事について

第5回 医療・介護保障と生命保険

第6回 死亡・老後保障と生命保険

第7回 生命保険に関する法律

第8回 損害保険の基礎知識・保険種類

第9回 自動車保険・自賠責保険

第10回 火災保険・地震保険

第11回 傷害保険

第12回 損害保険経営・会計

第13回 損害保険会社・損害保険業界

第14回 全体のまとめ

【成績評価の方法】

レポートと出席による。

【参考文献】

保険に関するものは、基本的に参考になる。

【備考】

インテグレーション科目

科目名 クラス 講義区分	
経営管理論 01 <春集> 経営管理論 02 <秋集>	
村上 伸一	4単位

【講義概要】

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し、1世紀余りの歴史をもっています。支配から、価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは、自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから、経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが、本講義では、主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

【学習目標】

本講義では、既述のように、企業に焦点を絞り、現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら、組織と管理に関する理論を学習します。実態を分かりやすく捉えるために、映像資料を活用したいと考えています。

主に基盤的理論を学習しますが、学習を通して、実践的有用性のみならず、知的な面白さも実感し、自ら学ぶ意思を固めていくこと、これが当面の目標となります。

【講義計画】

第1回 オリエンテーション

第2回 イントロダクション

第3回 現代の経営管理の諸相

第4回 経営管理とは何か

第5回 経営管理者の階層

第6回 経営管理者の職能

第7回 経営学と経営管理論

第8回 経営管理學説の今日の意味

第9回 テイラーの科学的管理法

第10回 人間関係論と人間資源論

第11回 管理過程論

第12回 近代経営管理論(1)

第13回 近代経営管理論(2)

第14回 基礎理論としてのバーナード理論

第15回 中間試験

第16回 現代組織の諸相

第17回 経営組織のミクロ理論

第18回 経営組織のマクロ理論

第19回 経営組織論の総括的展望

第20回 現代企業戦略の諸相

第21回 戦略的経営管理とは何か

第22回 経営戦略の内容とレベル

第23回 経営多角化と投資利益率

第24回 企業ポートフォリオ分析

第25回 競争戦略論

第26回 持続的競争優位の源泉としての独自能力

第27回 グローバル戦略経営管理論

第28回 価値創造の経営管理論の展望

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 5%

中間・期末試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき、それを評価に加えることがありますので、毎回教科書を持参下さい（試験点数に最大で5%プラス）。

【教科書】

村上伸一 価値創造の経営管理論（改訂4版）創成社

【参考文献】

眞野 脩『組織経済の解明』文眞堂、1978年。

図書館で読むことができます。その他、適宜紹介します。

【備考】

<02～08生>の【E生】はコース設計科目として履修可

<02～08生>の【B生】は学科選択科目として履修可

<08～09生>の【SS・SW・L・J生】は共通自由科目として履修可

科目名	クラス	講義区分
経営工学（応用） <秋>		
明 石 吉 三	2単位	

【講義概要】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的接近法である。この諸問題は時代とともに様々に変化してきている。特に、近年、経済、政治、ビジネス活動のグローバル化の進展に伴い、様々な問題が激増している。この講義では、課題の多い、製品・サービスの品質管理と、多様な企業連携が求められる、サプライチェーン管理の問題について、その基本を講義する。

春学期に開講した、経営工学（基礎）の受講していることは、経営工学（応用）の受講に必須ではないが、受講していることは望ましい。なお、この講義では、特別な数学的素養は必要がない。

【学習目標】

この講義での目標は次の通りである。

- 1 サプライチェーン管理の基本を学ぶ
 - ①在庫管理問題
 - ②在庫管理手法 ・EOQモデル ・ABC分析
 - ③サプライチェーン管理
 - ・サプライチェーン管理とは
 - ・サプライチェーン管理の事例
- 2 品質管理

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
第1回の講義で、講義全体の概要を説明します。
- 第2回 サプライチェーン管理 その生れた背景
- 第3回 在庫管理問題
- 第4回 経済的発注モデル (1)
- 第5回 経済的発注モデル (2)
- 第6回 在庫管理方式 ABC分類、定点、定量発注方式
- 第7回 安全在庫量の決定
- 第8回 サプライチェーン管理
- 第9回 品質管理：・品質とは ・品質の連鎖 ・品質管理とは
- 第10回 不良と品質の関係
- 第11回 品質向上策：工程能力と不良（内部、外部）、公差の関係
- 第12回 TQC（総合的品質管理）(1)
- 第13回 TQC（総合的品質管理）(2)
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 20% 出席 10%
 期末試験（70%）とレポート（提出状況と内容、20%）講義中に課す課題提出状況（10%）により、成績評価を行います。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営工学（基礎） <春>		
明 石 吉 三	2単位	

【講義概要】

経営工学は経営諸問題に対する科学的・数学的接近法である。この分野は英国、米国出の軍事研究を発端に生れた。その後、IE（Industrial Engineering）、オペレーションズ・リサーチ、経営科学という研究分野が生み出され、様々な経営、工学、公共分野での課題解決に寄与してきた。特に、我が国経済発展に多大な貢献をしてきたといえる。

本分野は、数理解析・計画手法、意思決定手法、生産管理、品質管理、ロジスティック管理等、極めて広範囲である。

本講義では、経営問題に対する意思決定のための、基本的手法について講義する。その応用展開については、秋学期に開講する経営工学（応用）を受講されたい。なお、本講義では詳細な数学的議論には立ち入らない。手法の考え方を理解することに注力したい。

【学習目標】

本講義の学習目的は次の通りである。

- 1 意思決定のための分析・計画手法の基本、すなわち、その手法の考え方を学ぶ。具体的には、
 - ・線形計画法
 - ・PERT手法
- 2 これら手法の活用法、すなわち、モデル化について学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
本講義の全体を説明します。
- 第2回 経営工学発展の歴史
- 第3回 数理解析法の基本
- 第4回 線形計画法 (1)問題の定義・表現
- 第5回 線形計画法 (2)解法
- 第6回 線形計画法 (3)解法
- 第7回 線形計画法 (4)事例
- 第8回 PERT手法 (1)プロジェクト管理
- 第9回 PERT手法 (2)プロジェクトの表現
- 第10回 PERT手法 (3)プロジェクトの解析
- 第11回 その他の手法概説
- 第12回 組合せ問題
- 第13回 モデル化について
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 70% レポート 20% 出席 10%
 期末試験（80%）、レポート（20%）及び講義内での課題提出状況（10%）により成績評価を行います。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。
 栗原、明石著「オペレーションズリサーチ」を参考にしてください。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営財務論（応用） <秋>	
今 木 秀 和	2単位

【講義概要】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金（カネ）、情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部から調達する。調達した資本は、目的や用途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

この講義では、経営財務の基礎知識を修得していることを前提に応用的問題に関する知識を講義する。

【学習目標】

経営財務の応用的問題に関する知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

- 第1回 1. 長期資本調達の制度(1)
- 第2回 2. 長期資本調達の制度(2)
- 第3回 3. 長期資本調達の制度(3)
- 第4回 4. エクイティ・ファイナンス(1)
- 第5回 5. エクイティ・ファイナンス(2)
- 第6回 6. 負債ファイナンスと証券化(1)
- 第7回 7. 負債ファイナンスと証券化(2)
- 第8回 8. 負債ファイナンスと証券化(3)
- 第9回 9. 配当政策と自社株買い(1)
- 第10回 10. 配当政策と自社株買い(2)
- 第11回 11. M&Aの広がり企業財務(1)
- 第12回 12. M&Aの広がり企業財務(2)
- 第13回 13. M&Aの広がり企業財務(3)
- 第14回 14. 新しい日本の経営の構築と企業財務(1)
- 第15回 15. 新しい日本の経営の構築と企業財務(2)

【成績評価の方法】

成績評価は学期末試験を基本とする。経営財務の応用的問題に関する知識の習得が、この講義の目標であるので、知識の習得がどの程度できているかを試験することによって判定する。

学期の途中で学習を整理し、理解を深めるために数回の小テストを行い、数回のレポートの提出を求める。

期末テスト、小テスト、レポート、出席状況を総合して成績をつける。期末テストが基本であり、その他は成績に加味する要素と考えている。

出席を毎回取る。出席カードにその都度講義の纏めを書いてもらう。合わせて質問、要望があれば記入してもらう。質問・要望には、次回の講義で答える。学生が参加する双方向の方式を心掛けて講義を進める。

【教科書】

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄共著 現代の財務管理 有斐閣

【参考文献】

高橋文郎・井出正介著『経営財務入門第3版』日本経済新聞社
若杉敬明著『入門ファイナンス』中央経済社
久保田啓一著『コーポレート・ファイナンス』東洋経済新報社

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営財務論（基礎） <春>	
今 木 秀 和	2単位

【講義概要】

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金（カネ）、情報の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を証券市場や金融市場、さらには企業の内部から調達する。調達した資本は、目的や用途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分が、この講義の主要な問題領域である。

この講義では、経営財務の基礎知識を講義する。

【学習目標】

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

【講義計画】

- 第1回 1. オリエンテーション
- 第2回 2. 財務管理とは
- 第3回 3. 財務的意思決定の基礎(1)
- 第4回 4. 財務的意思決定の基礎(2)
- 第5回 5. レバレッジと資本コスト(1)
- 第6回 6. レバレッジと資本コスト(2)
- 第7回 7. キャッシュフローと財務分析(1)
- 第8回 8. キャッシュフローと財務分析(2)
- 第9回 9. 資金繰りと財務管理・資金計画(1)
- 第10回 10. 資金繰りと財務管理・資金計画(2)
- 第11回 11. 投資案の評価(1)
- 第12回 12. 投資案の評価(2)
- 第13回 13. 投資価値の創造(1)
- 第14回 14. 投資価値の創造(2)
- 第15回 15. 投資価値の創造(3)

【成績評価の方法】

成績評価は学期末試験を基本とする。経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標であるので、基礎知識の習得がどの程度できているかを試験することによって判定する。

学期の途中で学習を整理し、理解を深めるために数回の小テストを行い、数回のレポートの提出を求める。

期末テスト、小テスト、レポート、出席状況を総合して成績をつける。期末テストが基本であり、その他は成績に加味する要素と考えている。

出席を毎回取る。出席カードにその都度講義の纏めを書いてもらう。合わせて質問、要望があれば記入してもらう。質問・要望には、次回の講義で答える。学生が参加する双方向の方式を心掛けて講義を進める。

【教科書】

榊原茂樹・菊池誠一・新井富雄共著 現代の財務管理 有斐閣

【参考文献】

高橋文郎・井出正介著『経営財務入門第3版』日本経済新聞社
若杉敬明著『入門ファイナンス』中央経済社
久保田啓一著『コーポレート・ファイナンス』東洋経済新報社

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営史 <春集>	
長谷川 彰	4単位

【講義概要】

この講義は80年前にアメリカで誕生した経営史学の方法論を用いて、具体的には日本社会を対象にした講義を行なう。日本の前近代社会から近・現代社会において、商家経営や企業経営がどのように展開したのか、また、商人や企業者がどのような行動をとったのか。そしてまた、その間、商人や企業者の理念がどのように変遷したのか、その実態を明らかにしたい。そのようなことを通じて、「日本の経営」とは何かということに迫っていききたい。

【学習目標】

前近代および近・現代における商家経営や企業経営の実態を具体的に把握し、併せてそれらの変遷を理解することが、第一の学習目標である。そのうえに、商人や企業者の活動について理解できればと思う。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 経営史学の成立と発展
- 第3回 企業者史学の台頭
- 第4回 企業者活動の国際比較—イギリス・アメリカの場合—
- 第5回 企業者活動の国際比較—日本の場合—
- 第6回 近世経済社会の成立
- 第7回 近世の貨幣・信用制度
- 第8回 近世の流通制度—株仲間—
- 第9回 近世商家の経営—鴻池家の場合—
- 第10回 近世商家の経営—三井家の場合—
- 第11回 近世特産物の流通—竜野醤油の場合—
- 第12回 近世特産物の流通—阿波藍の場合—
- 第13回 近世商家の経営理念
- 第14回 日本の経営の原型
- 第15回 近世社会の遺産
- 第16回 近代社会のはじまり
- 第17回 殖産興業政策(1)
- 第18回 殖産興業政策(2)
- 第19回 明治期の会社制度
- 第20回 企業勃興
- 第21回 近代企業家の系譜
- 第22回 三井の近代化
- 第23回 三井合名会社の成立
- 第24回 戦時体制下の財閥
- 第25回 財閥解体
- 第26回 企業集団の形成
- 第27回 企業集団の再編成
- 第28回 まとめ

【成績評価の方法】

試験にて行なう。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

随時指示する。

科目名 クラス 講義区分	
経営情報技術論A 01<春>	
村山 博	2単位

【講義概要】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】

本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

- 第1回 経営情報技術論の概論
- 第2回 インターネット、マルチメディアの活用
- 第3回 ユビキタス社会の特徴
- 第4回 アナログとデジタルの特徴
- 第5回 2進数の基礎と計算
- 第6回 2進数の補数
- 第7回 2進化10進数
- 第8回 16進数の基礎と計算
- 第9回 企業活動における知的財産情報の管理
- 第10回 企業活動における著作権情報の管理
- 第11回 企業活動における個人情報の管理
- 第12回 企業活動における秘密情報と公開情報
- 第13回 企業の研究開発に関する情報管理
- 第14回 インターネットを活用した新たなビジネス
- 第15回 情報化社会の未来

【成績評価の方法】

試験 100%

原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は講義で指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

か
行

科目名 クラス 講義区分	
経営情報技術論A 02 <秋>	
村山 博	2単位

【講義概要】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】

本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

- 第1回 経営情報技術論の概論
- 第2回 インターネット、マルチメディアの活用
- 第3回 ユビキタス社会の特徴
- 第4回 アナログとデジタルの特徴
- 第5回 2進数の基礎と計算
- 第6回 2進数の補数
- 第7回 2進化10進数
- 第8回 16進数の基礎と計算
- 第9回 企業活動における知的財産情報の管理
- 第10回 企業活動における著作権情報の管理
- 第11回 企業活動における個人情報の管理
- 第12回 企業活動における秘密情報と公開情報
- 第13回 企業の研究開発に関する情報管理
- 第14回 インターネットを活用した新たなビジネス
- 第15回 情報化社会の未来

【成績評価の方法】

試験 100%
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は講義で指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営情報技術論B 01 <春>	
村山 博	2単位

【講義概要】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】

本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

- 第1回 さまざまなコンピュータ
- 第2回 最先端コンピュータ、最先端ロボット、ナノテクノロジー
- 第3回 情報とは、さまざまな情報とその活用、
- 第4回 コンピュータの歴史
- 第5回 コンピュータの5大機能
- 第6回 入力装置、出力装置
- 第7回 記憶装置、制御装置、演算装置
- 第8回 主記憶の高速化（メモリーインターリーブ、キャッシュメモリ、命令パイプライン）
- 第9回 分散システム、クライアント・サーバ方式
- 第10回 オペレーティング・システム
- 第11回 インターネット、通信技術（変調・復調、多重化）
- 第12回 通信プロトコル、TCP/IP、OSI基本参照モデル
- 第13回 ネット社会における光と影
- 第14回 情報化社会における技術開発の変化
- 第15回 これからの経営情報技術

【成績評価の方法】

試験 100%
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は講義で指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営情報技術論B 02<秋>		
村山 博	2単位	

【講義概要】

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、経営情報技術に関する基礎的な学習を行う。

【学習目標】

本講義は、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンビジとして必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

【講義計画】

- 第1回 さまざまなコンピュータ
- 第2回 最先端コンピュータ、最先端ロボット、ナノテクノロジー
- 第3回 情報とは、さまざま情報とその活用
- 第4回 コンピュータの歴史
- 第5回 コンピュータの5大機能
- 第6回 入力装置、出力装置
- 第7回 記憶装置、制御装置、演算装置
- 第8回 主記憶の高速化（メモリーインターリーブ、キャッシュメモリ、命令パイプライン）
- 第9回 分散システム、クライアント・サーバ方式
- 第10回 オペレーティング・システム
- 第11回 インターネット、通信技術（変調・復調、多重化）
- 第12回 通信プロトコル、TCP/IP、OSI基本参照モデル
- 第13回 ネット社会における光と影
- 第14回 情報化社会における技術開発の変化
- 第15回 これからの経営情報技術

【成績評価の方法】

試験 100%
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は講義で指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営情報基礎 01<秋>		
明石 吉三	2単位	

【講義概要】

経営学部における経営情報関連科目は、次の4科目である。

- ・情報技術について学習する「経営情報技術論」
- ・情報システムについて学習する「経営情報システム論」
- ・情報化と組織について学習する「情報化組織論」
- ・情報活用による分析・計画を学習する「経営工学」

この講義は、上記4科目のイントロダクションとして位置づけられ、それぞれの基礎的内容を学習することを目的としている。また、基礎的学習に加え、4つの講義の学習に必要な数学の基礎も学習する。

【学習目標】

この講義の学習目標は、経営管理、組織運営にとって、コンピュータシステムをはじめとする情報技術、情報システム、経営問題に対するその活用方法の基礎を学ぶことにある。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
(第1回の講義で、本講義の詳しい説明が実施されます。)
- 第2回 コンピュータの仕組み
- 第3回 データの表現法：n進数 (1)
- 第4回 データの表現法：n進数 (2)
- 第5回 コンピュータの内部構成 (1)
- 第6回 コンピュータの内部構成 (2)
- 第7回 経営情報システムの発展 (1)
- 第8回 経営情報システムの発展 (2)
- 第9回 経営情報システムの事例
- 第10回 情報技術・経営戦略・組織 (1)
- 第11回 情報技術・経営戦略・組織 (2)
- 第12回 経営科学の基礎 (1)
- 第13回 経営科学の基礎 (2)
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
期末試験(80%)と課題レポート(：課題提出状況、20%)により成績評価を行います。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【備考】

[09B生]のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
経営情報基礎 02 <秋>	
明 石 吉 三	2単位

【講義概要】

経営学部における経営情報関連科目は、次の4科目である。

- ・情報技術について学習する「経営情報技術」
- ・情報システムについて学習する「経営情報システム論」
- ・情報化と組織について学習する「情報化組織論」
- ・情報活用による分析・計画を学習する「経営工学」

この講義は、上記4科目のイントロダクションとして位置づけられ、それぞれの基礎的内容を学習することを目的としている。また、この基礎的学習に加え、4つの講義に必要な数学の基礎も学習する。

【学習目標】

この講義の学習目標は、経営管理、組織運営にとって、コンピュータシステムをはじめとする情報技術、情報システム、経営問題に対するその活用法の基礎を学ぶことにある。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
(第1回の講義で、本講義の詳しい説明が実施されます。)
- 第2回 コンピュータの仕組み
- 第3回 データ表現法：n進数 (1)
- 第4回 データ表現法：n進数 (2)
- 第5回 コンピュータの内部構成 (1)
- 第6回 コンピュータの内部構成 (2)
- 第7回 経営情報システムの発展 (1)
- 第8回 経営情報システムの発展 (2)
- 第9回 経営情報システムの事例
- 第10回 情報技術・経営戦略・組織 (1)
- 第11回 情報技術・経営戦略・組織 (2)
- 第12回 経営科学の基礎 (1)
- 第13回 経営科学の基礎 (2)
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20%
 期末試験 (80%) と課題レポート (：課題提出状況、20%) により成績評価を行います。

【教科書】

プリントを配布します。

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【備考】

[09B生]のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
経営情報基礎 03 <秋>	
村 山 博	2単位

【講義概要】

経営学部における経営情報関連の講義は、以下の4つである。

「経営情報技術論」、「経営情報システム論」、「情報化組織論」、「経営工学」

本講義は上記の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられ、経営情報に関する基礎を学習するものである。

【学習目標】

本講義の目的は、最低限必要な数学の基礎、コンピュータの基礎、ネットワークの仕組み、情報化社会の企業活動の変化、企業における情報活用などを学習し、ICT社会 (情報通信社会) で活躍するビジネスパーソンとして必要な経営情報の基礎を習得することである。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 さまざまな情報 情報とは？
- 第3回 ユビキタス社会とさまざまなコンピュータ
- 第4回 情報化社会の現状と未来のコンピュータ
- 第5回 コンピュータの仕組み
- 第6回 2進数の基本
- 第7回 2進数の計算
- 第8回 16進数の基本と計算
- 第9回 ネットワークの仕組み
- 第10回 デジタル化とその活用
- 第11回 企業におけるコンピュータの活用事例
- 第12回 情報セキュリティ
- 第13回 インターネットを活用した新たなビジネス
- 第14回 ネットワークを活用した企業活動
- 第15回 情報化社会の未来 (ロボット、ライフサイエンス、モバイル)

【成績評価の方法】

試験 100%
 原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

[09B生]のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
経営情報基礎 04 <秋>	
村山 博	2単位

【講義概要】

経営学部における経営情報関連の講義は、以下の4つである。
「経営情報技術論」、「経営情報システム論」、「情報化組織論」、「経営工学」
本講義は上記の4つの講義のイントロダクションとして位置づけられ、経営情報に関する基礎を学習するものである。

【学習目標】

本講義の目的は、最低限必要な数学の基礎、コンピュータの基礎、ネットワークの仕組み、情報化社会の企業活動の変化、企業における情報活用などを学習し、ICT社会（情報通信社会）で活躍するビジネスパーソンとして必要な経営情報の基礎を習得することである。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 さまざまな情報 情報とは？
- 第3回 ユビキタス社会とさまざまコンピュータ
- 第4回 情報化社会の現状と未来のコンピュータ
- 第5回 コンピュータの仕組み
- 第6回 2進数の基本
- 第7回 2進数の計算
- 第8回 16進数の基本と計算
- 第9回 ネットワークの仕組み
- 第10回 デジタル化とその活用
- 第11回 企業におけるコンピュータの活用事例
- 第12回 情報セキュリティ
- 第13回 インターネットを活用した新たなビジネス
- 第14回 ネットワークを活用した企業活動
- 第15回 情報化社会の未来（ロボット、ライフサイエンス、モバイル）

【成績評価の方法】

試験 100%
原則的に試験により評価するが、授業態度を加味することがある。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

〔09B生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
経営情報基礎 05 <春> 経営情報基礎 06 <秋>	
深谷 清之	2単位

【講義概要】

本講義は、経営学部の1年次における経営情報分野の基礎的な事項を学習する講義である。主な項目としては、以下の4つがある。
・「情報技術」について学習する「経営情報技術論」
・「情報システム」について学習する「経営情報システム論」
・「情報化と組織」について学習する「情報化組織論」
・「情報利用と計画」について学習する「経営工学」
そこで、経営学部以外の学生諸君には、これら4つの講義のイントロダクションを理解してもらう。また、上記の内容に加え、講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。

【学習目標】

本講義の目的は、経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、IT（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が大きな助けとなることを理解してもらうことである。
とくに、期末試験では数学の分野がほぼ配点の半分を占めるため、第1回目のオリエンテーションを受講し、その点を予め理解することが必要である。
なお、講義の内容が基礎的なことであるため、対象とする学生の年次は、経営学部以外の1年生である。また、経営学部生は本講義を受講することはできない。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コンピュータの仕組み
- 第3回 n進数<その1>
- 第4回 n進数<その2>
- 第5回 基本回路
- 第6回 経営情報システムの発展
- 第7回 情報技術・経営戦略・組織<その1>
- 第8回 情報技術・経営戦略・組織<その2>
- 第9回 情報共有と標準化・ネットワーク化
- 第10回 インターネットとインターネットビジネス
- 第11回 システム論の基礎
- 第12回 企業事例の説明<その1>
- 第13回 企業事例の説明<その2>
- 第14回 経営情報基礎のまとめ
- 第15回 期末試験（期間内試験を予定）

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%
各講義で、簡単な数学のテストなどを実施し、それを出席点として加算します。

【教科書】

テキストは特に指定しない。毎回、講義でプリントを配布する。

【参考文献】

とくになし。

【備考】

【B生】は05・06クラス履修不可
<08~09生>の【E・SS・SW・L・J生】は共通自由科目として履修可

か
行

科目名 クラス 講義区分	
経営情報システム論Ⅰ <春>	
深 谷 清 之	2単位

【講義概要】

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証、組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。経営情報システム論Ⅱを理解する上での基礎的な内容を学習する。

【学習目標】

本講義では、まず、そのような情報システムをどのように企業経営、マネジメントへ利用したのかを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介する。次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 全体の進め方、成績評価等
- 第2回 1. 情報システムシステムマネジメントの概要
2. 企業における先進的情報システム事例 花王
- 第3回 企業における先進的情報システム事例 ヤマト運輸
- 第4回 企業における先進的情報システム事例 アメリカン航空
- 第5回 企業における先進的情報システム事例 銀行
- 第6回 コンピュータの歴史
- 第7回 基本的な情報技術
- 第8回 経営情報システムにおける情報管理
- 第9回 レポートの評価と返却、再提出について
- 第10回 業務形態や社会生活と情報システム
- 第11回 産業・経営と情報システム
- 第12回 企業事例での検証<その1>
- 第13回 企業事例での検証<その2>
- 第14回 本講義のまとめ
- 第15回 期末試験（期間外試験の予定）

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%

【教科書】

とくに指定しない。毎回の講義でプリントを配布する予定。

【参考文献】

とくに指定しない。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営情報システム論Ⅱ <秋>	
深 谷 清 之	2単位

【講義概要】

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証、組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。経営情報システム論Ⅰで学習した内容をもとに、さらに応用的な内容を学習する。

【学習目標】

本講義では経営情報システム論Ⅰで学習した内容をベースに、組織と情報システムの関係、ICタグの利用やサプライチェーンマネジメントなどを学ぶ。その上で、多くの業界における企業の事例を学習し、現在の状況や今後の課題等を学ぶ。

【講義計画】

- 第1回 全体の進め方、成績評価等
- 第2回 経営情報システム論Ⅰの振り返り
- 第3回 組織と情報システム
- 第4回 IT技術の利用 その1 ICタグについて
- 第5回 IT技術の利用 その2 サプライチェーンマネジメントについて
- 第6回 企業事例の学習 流通業の事例について その1
- 第7回 企業事例の学習 流通業の事例について その2
- 第8回 企業事例の学習 製造業の事例について その1
- 第9回 レポートの評価と返却、再提出について
- 第10回 企業事例の学習 製造業の事例について その2
- 第11回 企業事例の学習 金融業の事例について その1
- 第12回 企業事例の学習 金融業の事例について その2
- 第13回 企業における情報システムの役割について
- 第14回 本講義のまとめ
- 第15回 期末試験（期間外試験の予定）

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 50%

【教科書】

とくに指定しない。毎回の講義でプリントを配布する予定。

【参考文献】

とくに指定しない。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経営分析 <秋集>		
河合隆治	4単位	

【講義概要】

経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。

このような分析は、会計や金融を専門とする職業に就く場合だけではなく、みなさんがどの会社に就職しようか迷った時、株式を買う時、会社の状況を財務的に把握する時に役立ちます。

経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけではなく、実際に分析する必要があります。そのため、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。

本講義を受ける上で、経営学部必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていないでも経営分析を理解することは可能です。

【学習目標】

本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。具体的には、本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくこととなります。

【講義計画】

- 第1回 経営分析の意義と方法
- 第2回 貸借対照表：資産
- 第3回 貸借対照表：負債
- 第4回 貸借対照表：純資産
- 第5回 損益計算書：収益
- 第6回 損益計算書：費用
- 第7回 損益計算書：段階別利益計算
- 第8回 貸借対照表と損益計算書との関係
- 第9回 会社の安定性分析：講義
- 第10回 会社の安定性分析：演習
- 第11回 会社の安定性分析：解説
- 第12回 会社の収益力分析：講義
- 第13回 会社の収益力分析：演習
- 第14回 会社の収益力分析：解説
- 第15回 会社の活性度分析：講義
- 第16回 会社の活性度分析：演習
- 第17回 会社の活性度分析：解説
- 第18回 理解度確認テスト：演習
- 第19回 理解度確認テスト：解説
- 第20回 会社の発展性分析：講義
- 第21回 会社の発展性分析：演習
- 第22回 会社の発展性分析：解説
- 第23回 キャッシュフローの分析：講義
- 第24回 キャッシュフローの分析：演習
- 第25回 キャッシュフローの分析：解答
- 第26回 会社の総合的分析：講義
- 第27回 会社の総合的分析：演習
- 第28回 会社の総合的分析：発表

【成績評価の方法】

試験 87% 出席 13%

※成績評価方法については初回の講義時に詳細に説明します。

【教科書】

森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社

【参考文献】

- ・桜井久勝『財務諸表分析第三版』中央経済社、2007年。
- ・乙政正太『基本テキストシリーズ：財務諸表分析』同文館出版、2005年。

【備考】

- ・ほぼ毎回必要な補助資料（プリント）を配布します。分量が多いので、ファイルを用意してください。
- ・その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科目名	クラス	講義区分
経営労務論A <春>		
正亀芳造	2単位	

【講義概要】

21世紀に入り、厳しい経済環境のもとで日本企業は様々な改革に取り組んでいる。中でも、人的資源管理に関わる諸制度の改革が盛んである。人的資源管理とは、経営を構成するヒト・モノ・カネの3要素のうち、ヒトに関わる管理をいう。企業経営を動かすのはヒトであり、その働き如何が経営を左右する。企業を取り巻く経済・社会環境に加え、ヒトの価値観も転換期にある今日、従来の終身雇用と年功序列を基礎とした人的資源管理もその転換が求められているのである。本講義では、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題を可能な限り多面的に考察し、その展望を試みたい。

【学習目標】

本講義では、現代の日本企業が人的資源管理において直面している諸問題を可能な限り多面的に解説します。現代の日本企業が直面している人的資源管理の主要な問題は何か、これを理解することが当面の学習目標となります。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：人的資源管理の現代的意義
- 第2回 企業経営と人的資源管理
- 第3回 雇用管理
- 第4回 キャリア開発
- 第5回 昇進制度
- 第6回 資格制度
- 第7回 人事考課制度
- 第8回 専門職制度
- 第9回 賃金制度（1）
- 第10回 賃金制度（2）
- 第11回 福利厚生制度
- 第12回 労使関係
- 第13回 女性労働者
- 第14回 中高年労働者

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【教科書】

奥林康司編著 入門 人的資源管理 中央経済社

【参考文献】

- 吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』（四訂版）同文館、2006年。
 - 奥林康司・平野俊俊編著『フラット型組織の人事制度』中央経済社、2004年。
- その他、講義中に適宜指示します。

【備考】

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経営労務論B <春>	
正 亀 芳 造	2 単位

【講義概要】

経営労務論＝人的資源管理論の歴史を考察することは、現代企業の直面する人的資源管理の諸問題（例えば、従業員のモチベーションを高めるにはどうすればよいのか？ 給与は人々を動機づける有用な要因か？）を考える上で大きなヒントを与えてくれます。本講義は、アメリカにおいて生成し発展してきた人的資源管理論の歴史を概観することを課題としています。アメリカの人的資源管理論を取り上げる理由は、それが歴史上最も早く登場するとともに、日本を始めとする諸外国の人的資源管理論に大きな影響を及ぼしてきたからです。

【学習目標】

現代企業が直面する人的資源管理の諸問題を考える上で指針となる人的資源管理の諸理論の理解を深めること、これが本講義の学習目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション：人的資源管理論史の視点
- 第2回 内部請負制度における労働と管理
- 第3回 成行管理
- 第4回 テーラー・システム(1)
- 第5回 テーラー・システム(2)
- 第6回 フォード・システム
- 第7回 人事管理
- 第8回 ヒューマンレイションズ(1)
- 第9回 ヒューマンレイションズ(2)
- 第10回 行動科学的人的資源管理論(1)
- 第11回 行動科学的人的資源管理論(2)
- 第12回 ヒューマン・リソース・マネジメント(1)
- 第13回 ヒューマン・リソース・マネジメント(2)
- 第14回 講義のまとめ

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②数回実施する小テストの成績、③レポートの成績、を総合して評価します。

【参考文献】

奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社、2003年。
吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』（四訂版）同文館、2006年。
その他、講義で適宜指示します。

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
景気循環論 <秋集>	
滝 田 和 夫	4 単位

【講義概要】

資本主義経済は好景気・不景気の交替という景気循環を通じて発展してきた。景気がよいときには企業は高利潤を謳歌し、労働者も賃金上昇による生活水準の向上を楽しむ。人々の表情は明るく、自信に満ち溢れ、社会には活気がみなぎる。しかし、好景気が永続しないのは資本主義経済の不滅の教訓である。ひとたび景気が悪くなると、企業も家計も借金返済に追われ、企業倒産が頻発し、労働者はリストラで職を失う。人々の表情は暗く、社会には様々な不安が漂う。

この講義では、このような景気の交替が資本主義経済で繰り返されるのはなぜかということについて考えていく。そこでは、景気循環に関する基礎的な知識と基本的・代表的な景気循環理論について解説する。なお、景気循環論はマクロ経済学の応用の側面をもつので、マクロ経済学を修得済みであるか、またはこの講義と並行して履修されることが望ましい。

「授業計画」の「期末テスト」については期間内試験を予定しているが、受講者数が少ない場合には期間外試験（第28回目）で行うかもしれないので注意していただきたい。

【学習目標】

この講義では、景気循環に関する基礎的な知識を習得すること、およびいくつかの基本的・代表的な景気循環理論を理解することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1 景気循環の定義 1
- 第3回 1 景気循環の定義 2
- 第4回 2 様々な循環とSchumpeter 1
- 第5回 2 様々な循環とSchumpeter 2
- 第6回 2 様々な循環とSchumpeter 3
- 第7回 2 様々な循環とSchumpeter 4
- 第8回 3 景気循環の測定とMitchell 1
- 第9回 3 景気循環の測定とMitchell 2
- 第10回 3 景気循環の測定とMitchell 3
- 第11回 4 景気動向指数と予測 1
- 第12回 4 景気動向指数と予測 2
- 第13回 5 景気循環理論の基礎 1
- 第14回 中間テスト
- 第15回 5 景気循環理論の基礎 2
- 第16回 5 景気循環理論の基礎 3
- 第17回 6 乗数・加速度理論 6.1 Harrodモデル 1
- 第18回 6.1 Harrodモデル 2
- 第19回 6.1 Harrodモデル 3
- 第20回 6.2 Samuelsonモデル
- 第21回 6.3 Hicksモデル 1
- 第22回 6.3 Hicksモデル 2
- 第23回 6.3 Hicksモデル 3
- 第24回 7 非線形景気循環論 1
- 第25回 7 非線形景気循環論 2
- 第26回 7 非線形景気循環論 3
- 第27回 8 不規則衝撃の理論 1
- 第28回 8 不規則衝撃の理論 2
- 第29回 期末テスト

【成績評価の方法】

試験 90% レポート 0% 出席 10%

基本的に中間試験と期末試験によるが、出席も若干加味する。

【教科書】

教科書は指定せず随時プリントを配布する。なお、第5章以下については参考文献1の第II部が参考になる。

【参考文献】

- 1. 浅利一郎著『IT時代のマクロ経済学』（実教出版社）
- 2. 置塩信雄編著『景気循環』（青木書店）
- 3. J. R. ヒックス（著）古谷弘（訳）『景気循環論』（岩波書店）
- 4. 長島誠一著『景気循環論』（青木書店）

科目名	クラス	講義区分
経済開発論 <春集>		
望 月 和 彦	4単位	

【講義概要】

テーマ：経済開発の歴史と現状

イラクやアフガニスタンの現状を見れば、貧困がテロの温床となっていることが分かる。テロを撲滅するためには、貧困の解消、即ち経済発展を促進しなければならないのであり、その意味で開発途上国の経済発展問題は、すでに高い生活水準を達成した先進諸国にとっても他人事ではない。

それではどうすれば経済発展・経済開発に成功することができるのだろうか。それは経済発展の歴史に学ぶしかない。そこで産業革命以後、20世紀初めまでの経済発展の歴史の説明を行う。

また経済発展は私たちに豊かな生活をもたらすと同時に色々な弊害も引き起こしている。その中でもっとも深刻と思われるのは環境問題であり、資源問題であり、人口問題である。本講ではこれらの問題を取り上げていく。中心となるのは資源・環境問題であり、これらの問題が果たして経済成長をストップさせるかどうかを考えていく。

最後に経済発展に必要な社会条件について論じる。

【学習目標】

本講では、色々な問題に対して全く異なる接近法をとったり、世間一般に信じられていることとは全く正反対の議論が行われることがある。そのため授業に出ることのできない学生諸君が単位を取ることには大変難しい。受講生には、柔軟な思考、冷静な判断力が求められる。

【講義計画】

- 第1回 科学的思考とは何か
- 第2回 経済開発の意義
- 第3回 経済発展の要因 その1 お金
- 第4回 経済発展の要因 その2 資本
- 第5回 経済発展の要因 その3 価値観・制度
- 第6回 近代以前の社会
- 第7回 産業革命
- 第8回 産業革命の光と陰
- 第9回 大衆消費社会への助走
- 第10回 第二次産業革命
- 第11回 大量生産方式の成立 フォーディズム
- 第12回 大量生産社会のもたらしたもの
- 第13回 第一回 中間試験
- 第14回 経済成長に対する二つの制約
- 第15回 地球規模の環境問題 その1 オゾン層破壊
- 第16回 地球規模の環境問題 その2 地球温暖化
- 第17回 地球規模の環境問題 その3 種の多様性
- 第18回 その他の環境問題 酸性雨、廃棄物問題
- 第19回 資源問題
- 第20回 エントロピーから見た成長制約、経済成長の真の限界について
- 第21回 第二回 中間試験
- 第22回 人口の意義・歴史的な人口動態
- 第23回 人口成長の要因としての「身体的進化」
- 第24回 人口成長の3つの抑制因
- 第25回 人口転換、出生率の経済学
- 第26回 人口成長が経済発展に与える影響、少子化社会の衝撃
- 第27回 経済発展の基礎としての社会秩序 その1
- 第28回 経済発展の基礎としての社会秩序 その2
- 第29回 試験

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 20% 出席 0%

本講では出席はとらない。ただし試験は中間・期末あわせて3回行う。2回の中間試験は授業時間中に行うので、これに出席して受験しなければ単位を取ることが難しくなる。

5月の連休中にレポートを課す予定である。

【参考文献】

本講ではテキストは使用しない。参考文献は第一回の講義の時に配付するシラバスで指示する。

科目名	クラス	講義区分
経済学 01 <春集>		
井 田 憲 計	4単位	

【講義概要】

この講義は、経済学を主要な専攻とすることがないであろう諸君を対象とする入門的な講義である。

経済学の専門用語と基本的な考え方を概説し、新聞や雑誌の経済記事あるいは政府の『経済財政白書』などの内容を理解するための基礎学力の習得をめざす。公務員試験などの練習問題にもチャレンジしていく予定である。

【学習目標】

受講生諸君には、経済の動きを論理的に考察することの大切さを理解していただければと思っている。「経済学的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できつと役に立つものであろう。

【講義計画】

- 第1回 1. ガイダンス
- 第2回 I. 経済学のもの見方考え方
 - 2. 経済学とは
- 第3回 3. ノーベル経済学賞、エコノミクスの生態
- 第4回 4. 市場の役割
- 第5回 5. 日本の経済力
- 第6回 6. 日本経済と世界経済の現状
- 第7回 II. ミクロ経済学
 - 7. 需要と供給
 - 第8回 8. 需要曲線のシフト
 - 第9回 9. 供給曲線のシフト
 - 第10回 10. 消費者の行動
 - 第11回 11. 予算制約
 - 第12回 12. 効用と無差別曲線
 - 第13回 13. 所得効果
 - 第14回 14. 代替効果
 - 第15回 15. 企業の行動
 - 第16回 16. 総費用曲線
 - 第17回 17. 限界費用曲線
 - 第18回 III. マクロ経済学
 - 18. GDP（国内総生産）
 - 第19回 19. 三面等価
 - 第20回 20. 実額、構成比、成長率、寄与度
 - 第21回 21. 所得・支出分析
 - 第22回 22. 45度線モデル、租税、輸入関数
 - 第23回 23. 総需要政策
 - 第24回 24. IS-LM分析
 - 第25回 25. AD-AS分析
 - 第26回 26. 貿易と為替
 - 第27回 27. 経済の成長と変動
 - 第28回 28. まとめ
 - 第29回 期末試験
 - 第30回 （注：理解度に応じて、順序を入れ替えることがある）

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%

[中間レポート]は一回、[出席・講義時間中の小テスト]は不定期に実施する予定

【教科書】

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

【参考文献】

資格試験研究会編『速攻！まるごと経済学-ミクロ・マクロ経済理論-』実務教育出版（¥1300+税）ISBN:978-4788946289

西村和雄『入門経済学ゼミナール』実務教育出版（¥2913+税）ISBN:978-4788960672

科目名 クラス 講義区分	
経済学 02 <春集>	
西川 憲二	4単位

【講義概要】

はじめに、日本経済の現状と問題点を検討する。そしてこれらの経済問題を考えるために必要な、経済学の基礎理論について講義する。

【学習目標】

マクロ経済学と貿易理論とミクロ経済学に関する、基礎理論の修得を学習目標とする。

【講義計画】

- 第1回 経済学とは何か
- 第2回 経済学の系統図
- 第3回 日本経済の現状と問題点
- 第4回 「失業」と非正規雇用問題
- 第5回 財政赤字問題
- 第6回 社会保障制度と少子高齢化問題
- 第7回 世界経済の覇権の歴史
- 第8回 マクロ経済学：経済力の計り方
- 第9回 国民総生産の決定メカニズム
- 第10回 所得・支出分析1
- 第11回 所得・支出分析2
- 第12回 総需要政策
- 第13回 銀行制度
- 第14回 貿易と為替レート
- 第15回 リカードの「比較優位の法則」
- 第16回 貿易で「2国2財モデル1生産要素」の場合
- 第17回 円ドル為替レート
- 第18回 個人（家計）の行動：無差別曲線
- 第19回 予算制約
- 第20回 所得の変化
- 第21回 価格の変化
- 第22回 企業の行動
- 第23回 総需要線
- 第24回 独占企業の利潤最大化行動
- 第25回 完全競争
- 第26回 パレート効率性
- 第27回 不完全競争
- 第28回 公共財

【成績評価の方法】

3回の小テスト（各10点満点）および期間内試験（100点満点）で合計80点以上A、70点以上B、60点以上C、60点未満D。

【参考文献】

スティグリッツ・ウォルシュ「マクロ経済学・ミクロ経済学」東洋経済新報社

科目名 クラス 講義区分	
経済学 03 <秋集>	
一ノ瀬 篤	4単位

【講義概要】

経済学の基礎知識と基礎用語を学習する。

【学習目標】

「理解」とは「他の人に向かって分かりやすく説明できること」と同義。各人が、主要な経済用語とごく基本的な理論を他の人に説明できるようになることを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 経済学の研究対象
- 第2回 生産、運輸、流通
- 第3回 消費、投資
- 第4回 貯蓄
- 第5回 資本蓄積（経済の成長）
- 第6回 経済成長の指標：GDPとGNP
- 第7回 名目と実質、フローとストック
- 第8回 国民所得統計の見方
- 第9回 所得の流れ
- 第10回 貿易について
- 第11回 国際収支の見方
- 第12回 為替相場とは何か
- 第13回 為替相場決定理論：国際収支説
- 第14回 為替相場決定理論：購買力平価説
- 第15回 中間試験
- 第16回 金本位制度とは
- 第17回 ブレトンウッズ体制とは
- 第18回 変動相場制と管理通貨制度
- 第19回 銀行とはどんな企業か
- 第20回 中央銀行の役割
- 第21回 株式会社と株式市場
- 第22回 証券会社
- 第23回 租税と国債
- 第24回 財政支出
- 第25回 ケインズ思想
- 第26回 マネタリズムの主張
- 第27回 復習①：経済成長（付：利潤と利子）
- 第28回 復習②：国際収支と為替相場
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 100%
試験は中間試験と期末試験に分かれ、両者を均等に評価する。

【教科書】

テキストは用いず、一ノ瀬作成のレジメによって講義する。

【参考文献】

三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール 日本経済入門』（日本経済新聞社、2008年）

科目名 クラス 講義区分	
経済学 04 <秋集>	
中 村 勝 之	4 単位

【講義概要】

この講義は「国際経済」「株価」「失業」「日本の景気」という4つのトピックを取り上げる中で、「教養」としての経済学の知識を身につけることにある。これらのテーマにした理由は以下の通りである。

- ①年間を通して、1度は必ず報道される経済ネタであること。
- ②家計や企業、政府の動きが具体的に現れるテーマであること。
- ③受講生が興味を引くであろうテーマであること。

これらの諸領域はそれぞれ単独で複数の講義科目を成立するほど専門化されている。その意味で諸領域のすべてを網羅することは到底不可能である。したがって専門領域をピックアップして解説する本講義は、講義内容も通常のものより高度にならざるを得ない。しかしそれを覚悟の上で受講していただければ、教養としての経済学の知識をかなり体得できる講義であることを約束しよう。

【学習目標】

講義進行は講義概要で上げた4つの領域について、

- (1)概念・用語の定義
- (2)日本を中心としたデータの観察
- (3)ごく簡単な「数理モデル」の提示

という段階に区分して行われる。こうしたことを明示的に取り扱うことで、以下の点を理解することが学習目標である。

- (1)経済用語の正確な意味づけ
- (2)経済データの見方
- (3)経済学の論理性を利用する予定である。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
(受講生数や進行度合いによって、講義内容は変更することがある)
- 第2回 経済学の色眼鏡
- 第3回 国際経済Ⅰ (貿易統計の観察)
- 第4回 国際経済Ⅱ (為替レートの歴史と観察)
- 第5回 国際経済Ⅲ (為替レートに関する理論①)
- 第6回 国際経済Ⅳ (為替レートに関する理論②)
- 第7回 国際経済Ⅴ (為替レートに関する理論③)
- 第8回 第1回小テスト
- 第9回 株価Ⅰ (金融市場の分類)
- 第10回 株価Ⅱ (企業の分類)
- 第11回 第株価Ⅲ (株価の原理的決定)
- 第12回 株価Ⅳ (他の資産価格の原理的決定)
- 第13回 株価Ⅴ (バブルの歴史)
- 第14回 第2回小テスト
- 第15回 本講義前半のまとめ
- 第16回 中間試験
- 第17回 失業Ⅰ (労働市場の動向①)
- 第18回 失業Ⅱ (労働市場の動向②)
- 第19回 失業Ⅲ (労働市場の理論的考察①)
- 第20回 失業Ⅳ (労働市場の理論的考察②)
- 第21回 失業Ⅴ (労働市場の理論的考察③)
- 第22回 第3回小テスト
- 第23回 日本の景気Ⅰ (歴史的観察①)
- 第24回 日本の景気Ⅱ (歴史的観察②)
- 第25回 日本の景気Ⅲ (キチン循環とジューラー循環)
- 第26回 日本の景気Ⅳ (コンドラティエフ循環)
- 第27回 日本の景気Ⅴ (収束仮説)
- 第28回 第4回小テスト
- 第29回 本講義後半のまとめ
- 第30回 期末試験

【成績評価の方法】

- ①講義中に行われる「小テスト」(1回10点満点で4回実施。その獲得点数の合計を2.5倍にして100点満点に換算)
 - ②講義期間中頃に行われる「中間試験」(100点満点)
 - ③最終講義時に行われる「期末試験」(100点満点)
- ※上記①～③の獲得点数から「最高点の0.75倍+中位点の0.2倍+最低点の0.05倍」という算式で評点をだす。
- ※(必要であれば)各受講生の獲得点数をもとに加点措置を行い、60点以上のものが合格。
- ※ただし上記加点措置出59点以下のものに対してのみ「出席点」を加味する。

【参考文献】

適宜提示する。

【備考】

試験情報などはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/>) を参照すること。

科目名	クラス	講義区分
経済学基礎理論A 01 <通期>		
麻 生 憲 一	4 単位	

【講義概要】

経済学には特殊な専門用語が非常に多く、そのうえ数式や統計データなども含まれているため経済学を勉強したことのない門外漢にとって、その理解は至難の業である。また日頃、新聞や雑誌などで財政・金融政策の記事は目にはするけれど、その内容を正確に理解できている人は案外と少ない。しかし、多少なりとも経済学的な考え方や専門用語を理解しているだけで経済記事の読み方や現実経済の見方が変わってくるのも事実である。その意味で、経済学は生きた学問としての醍醐味を与えてくれる。

本講義は、マイクロ経済学の基礎的な考え方、専門用語、作図の書き方などを中心に概説する。知識の習得は重要なことではあるが、ただ単に暗記に終わることのないよう配慮して授業を進めていく。

【学習目標】

マイクロ経済学の基礎概念を理解する。

- (1) 需要概念、供給概念
- (2) 経済主体の行動目的
- (3) 効用概念と最大化原理
- (4) 生産と費用
- (5) 利潤最大化原理
- (6) 市場概念と効率性

【講義計画】

- 第1回 講義ガイダンス
- 第2回 経済学概念と経済主体
- 第3回 市場概念（需要と供給の一致）
- 第4回 需要概念（需要曲線の形状とシフト）
- 第5回 供給概念（供給曲線の形状とシフト）
- 第6回 弾力性概念①（需要の価格弾力性）
- 第7回 弾力性概念②（供給の価格弾力性）
- 第8回 弾力性概念③（贅沢品と生活必需品）
- 第9回 余剰概念①（消費者余剰と生産者余剰）
- 第10回 余剰概念②（経済厚生）
- 第11回 家計行動（消費者の目的）
- 第12回 効用概念①（基数的効用と限界効用）
- 第13回 効用概念②（序数的効用と限界代替率）
- 第14回 効用概念③（効用最大化）
- 第15回 家計の最適行動（所得消費曲線と価格消費曲線）
- 第16回 需要曲線の導出
- 第17回 生産者行動（企業の目的）
- 第18回 生産関数の特性
- 第19回 費用関数の特性
- 第20回 生産者の最適行動
- 第21回 供給曲線の導出
- 第22回 完全競争市場と市場均衡①
- 第23回 完全競争市場と市場均衡②
- 第24回 不完全競争市場①（独占、寡占）
- 第25回 不完全競争市場②（独占的競争）
- 第26回 市場の失敗
- 第27回 情報の不確実性
- 第28回 総括

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 20% 出席 30%
定期試験と復期レポート、出席により評価する。毎回授業の終わりに行う「確認テスト」が出席カードとなる。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

授業中にその都度指示する。

科目名	クラス	講義区分
経済学基礎理論A 02 <通期>		
田 中 悟	4 単位	

【講義概要】

近代経済学の入門的・基礎的な理論の概説を通じて、経済学の考え方を学ぶ。前期（春学期）ではマイクロ経済理論を、後期（秋学期）ではマクロ経済理論を取り扱う。講義は単に理論の概説だけでなく、現実の経済現象が経済理論によってどのように捉えられるのかという点を意識しながら進められる。

【学習目標】

本講義では入門的な経済理論が講述される。講義で扱われる理論の習得を通じて、様々な経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目標となる。受講者は、現実の経済現象と講義で扱われる経済理論を比較対照しながら、「経済学的な見方」を身につけることが期待される。

【講義計画】

- 第1回 Introduction（経済学の対象と課題）
- 第2回 "（経済学的思考とは何か）
- 第3回 "（取引の利益）
- 第4回 市場メカニズムとは何か（需要と供給）
- 第5回 "（市場メカニズムの帰結）
- 第6回 "（市場メカニズムの応用例①）
- 第7回 "（市場メカニズムの応用例②）
- 第8回 市場メカニズムの意義（経済主体の行動）
- 第9回 "（余剰概念）
- 第10回 "（市場メカニズムの効率的帰結）
- 第11回 "（余剰概念の応用例）
- 第12回 市場の失敗（市場メカニズムの限界）
- 第13回 "（外部効果）
- 第14回 "（市場メカニズムと公共政策①）
- 第15回 "（市場メカニズムと公共政策②）
- 第16回 国民経済計算（マクロ経済学の対象と課題）
- 第17回 "（経済循環と国民所得概念）
- 第18回 "（国民所得概念の意味と内容）
- 第19回 "（インフレーションの測定）
- 第20回 "（名目値と実質値）
- 第21回 長期の実物経済（生産と経済成長）
- 第22回 "（経済成長と公共政策）
- 第23回 "（金融機関と金融市場）
- 第24回 "（貯蓄・投資の決定と金融システム）
- 第25回 短期の経済変動（経済変動の基本モデル）
- 第26回 "（総需要曲線）
- 第27回 "（総供給曲線）
- 第28回 "（総需要・総需要分析）

【成績評価の方法】

授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト（30%）と定期試験（中間試験を含む：70%）の結果を総合評価する。

【教科書】

マンキュー、N. G. 著／足立他訳 マンキュー入門経済学 東洋経済新報社

【参考文献】

1. スティグリッツ著・薮下/秋山/金子/木立/清野訳（2006）『入門経済学』（東洋経済新報社）
2. 伊藤元重（2001）『入門経済学（第2版）』（日本評論社）
3. 福岡正夫（2008）『ゼミナール経済学入門（第4版）』（日本経済新聞社）
4. マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳『マンキュー経済学（1）マイクロ編』『マンキュー経済学（2）マクロ編』（東洋経済新報社）

科目名	クラス	講義区分
経済学基礎理論A 03 <春集>		
中村 勝之	4単位	

【講義概要】

2008年9月でもって、2002年1月の「景気の谷」以降戦後最長を記録していた好景気が事実上終わりを告げた。その後の報道における不安感の煽りは、(極端だが)「この世の終わり」を叫ばんばかりである。

しかしこれまでの経験から、いわゆる(原油先物など)金融商品の価格の高騰が永続した歴史はなく、いつかは暴落する。その経験を知っているならば、われわれはそれに対する「備え」を持ち合わせていないと大変な目に遭う。つまりわれわれが今持たねばならないことは、報道に煽られて不安感を募らせることより、この事態が生起するまでに日本経済がその事態にどこまで耐えられる体力を保持していたかを冷静に見ることである。

そこでこの講義では戦後最長の好景気を記録した最近の日本経済事情を材料に、日本経済の真の体力を冷静に判断していくことにする。

なお必要に応じて数学を利用して行くので、この点を覚悟した上で受講に臨んで頂きたい。そうすれば、日本経済の現状が一定程度明瞭に見えてくるはずである。

【学習目標】

- ①講義の中心は政府の公式見解でもある『経済財政白書』の解説である。それを通じて「経済データの読み方」を学習する。
- ②『白書』の記述内容の裏には経済学の理論が横たわっている。その中から基本的な部分を「数理モデル」として提示し、その構造やメカニズムを学習する。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
(受講生数や理解度などを勘案して、以下の講義進行を変更することがある)
- 第2回 経済学の色眼鏡
- 第3回 GDP I (三面等価の原則)
- 第4回 GDP II (いろいろな国民経済計算指標)
- 第5回 GDP III (名目GDPと実質GDP)
- 第6回 第1回小テスト
- 第7回 日本経済事情 I (概略)
- 第8回 日本経済事情 II (雇用動向)
- 第9回 日本経済事情 III (企業の利益動向)
- 第10回 日本経済事情 IV (輸出入動向)
- 第11回 第2回小テスト
- 第12回 政策事情 I (財政事情)
- 第13回 政策事情 II (財政改革)
- 第14回 政策事情 III (金融関連の概要)
- 第15回 政策事情 IV (金融政策の変遷)
- 第16回 中間試験
- 第17回 日本経済のリスク対応力 I (概略)
- 第18回 日本経済のリスク対応力 II (研究開発など)
- 第19回 日本経済のリスク対応力 III (資金循環など)
- 第20回 日本経済のリスク対応力 IV (まとめ)
- 第21回 第3回小テスト
- 第22回 不確実性の経済分析 I (状況設定)
- 第23回 不確実性の経済分析 II (リスクに対する態度)
- 第24回 不確実性の経済分析 III (保険の役割)
- 第25回 不確実性の経済分析 IV (逆選択)
- 第26回 不確実性の経済分析 V (道徳的危機)
- 第27回 第4回小テスト
- 第28回 本講義のまとめ

【成績評価の方法】

- 試験 100% 出席 100%
- ①講義時間中に行われる「小テスト」(4回実施。場合によって5回程度実施することがある。その獲得点数合計を100点満点に換算)
 - ②講義期間中に行われる「中間試験」(100点満点)
 - ③「期末試験」(100点満点)
- ※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点を計算
- ※(必要であれば)書く受講生の獲得点数に応じた加点措置を行い、その結果が60点以上のものが合格。
- ※上記加点措置で59点以下の者には「出席点」を加味する。

【参考文献】

内閣府編『経済財政白書』(平成15年版～20年版)

【備考】

試験情報などはホームページ (<http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura>) を参照すること。

科目名	クラス	講義区分
経済学基礎理論A 04 <秋集>		
吉田 恵子	4単位	

【講義概要】

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を概観する。また、応用分野である労働経済学についても触れる。なお、学生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

【学習目標】

数式を理解し、経済学の基本的な考え方を見につけることを目的としている。毎回復習をしていることを前提として授業を行うため、復習は必ずすること。

【講義計画】

- 第1回 イントロダクション：授業の進め方と数学基礎テスト
- 第2回 経済学の十大原理1：人々の意思決定
- 第3回 経済学の十大原理2：経済は全体としてどのように動いているか
- 第4回 経済学者らしく考える
- 第5回 相互依存と交易からの自由
- 第6回 財の買い手：需要曲線
- 第7回 財の売り手：供給曲線
- 第8回 市場均衡、均衡価格、均衡取引量
- 第9回 具体的な数式を当てはめた計算、三段階アプローチ
- 第10回 弾力性とその応用1：需要の弾力性
- 第11回 弾力性とその応用2：供給の弾力性
- 第12回 中間テスト1
- 第13回 中間テスト1の解説
- 第14回 政府の政策1：価格規制
- 第15回 政府の政策2：税金
- 第16回 生産要素市場1：企業の労働需要
- 第17回 生産要素市場2：労働市場の均衡
- 第18回 勤労所得と差別1：均衡賃金の関するいくつかの決定要因
- 第19回 勤労所得と差別2：差別の経済学
- 第20回 所得不平等と貧困：不平等の尺度
- 第21回 中間テスト2
- 第22回 中間テスト2の解説
- 第23回 国民所得の測定1：GDPとは何か
- 第24回 国民所得の測定2：実質と名目
- 第25回 生計費の測定
- 第26回 生産と成長
- 第27回 総復習1：ミクロ経済学
- 第28回 総復習2：マクロ経済学
- 第29回 総復習3：労働経済学
- 第30回 テスト

【成績評価の方法】

試験 100%

中間テスト(20点)と期末試験(80点)で成績評価を行う。

私語や携帯電話の使用等、授業態度に問題のある学生は単位認定を認めない場合がある。

科目名 クラス 講義区分	
経済学基礎理論B 01 <通期>	
阿部 秀二郎	4単位

【講義概要】

経済学は日本や世界の経済の状態を理解するためのメガネです。人によってかけるメガネが違えば、場合によってかける必要があるメガネも違います。ゆえにメガネをどうかけたらいいのかについて、勉強したいと思います。

【学習目標】

いろいろなメガネがあることを理解すること、それぞれのメガネについて基礎的な意味を理解すること、似合うメガネをかけるのは難しいこと、などを把握してもらいます。わからないことをわからないと理解し、言葉の意味や考え方について、自分の言葉で知らない人に説明できることが目標です。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション1：成績評価についての考え方の提示、授業の方法についての説明
- 第2回 オリエンテーション2：経済学とは何か、他の学問との違いは何かについての説明
- 第3回 市場についての説明1：市場とはなにか？
- 第4回 市場についての説明2：いろいろな市場
- 第5回 市場についての説明3：市場の前提についてスミスの登場
- 第6回 市場をつなぐお金の説明1：お金とはなにか？
- 第7回 市場をつなぐお金の説明2：お金はどこからやってくるか？
- 第8回 市場をつなぐお金の説明3：お金についてのいろいろなメガネ
- 第9回 市場をつなぐ情報の説明1：情報とはなにか？
- 第10回 市場をつなぐ情報の説明2：情報の問題
- 第11回 経済学のレポートの書き方
- 第12回 市場に関する問題1
- 第13回 市場に関する問題2
- 第14回 視覚授業とレポート返却・講評
- 第15回 市場のアメとムチ1：市場システム
- 第16回 市場のアメとムチ2：キャリア
- 第17回 市場のアメとムチ3：労働政策の歴史
- 第18回 経済学で考える豊かさとは1：いくつかのサインの説明
- 第19回 経済学で考える豊かさとは2：流れでみる視点について
- 第20回 経済学で考える豊かさとは3：格差について
- 第21回 経済学で見る人間について1
- 第22回 経済学で見る人間について2
- 第23回 経済学で見る人間について3
- 第24回 経済学で見る社会について1
- 第25回 経済学で見る社会について2
- 第26回 経済学で見る社会について3
- 第27回 レポートの返却と講評
- 第28回 まとめ
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

基本的に初回のオリエンテーションで皆さんに、私の考え方を提示します。その考え方について議論し意見を集約して、決定します。

【教科書】

岩田規久男 経済学を学ぶ 筑摩書房

【参考文献】

授業中に、指示します。

科目名 クラス 講義区分	
経済学基礎理論B 02 <通期>	
大澤 健	4単位

【講義概要】

私たちが暮している社会は「市場経済」あるいは「資本主義社会」と呼ばれています。しかし、「市場」とは何か、「資本」とは何かと聞かれると正確に答えることは難しいものです。

この講義では、こうした経済の基本的な用語の意味を解説しながら、私たちが暮している社会の基本的な仕組みと特徴を講義していきます。経済の基本を学びながら、この社会がどのような社会であるのか学びましょう。

【学習目標】

以下の諸項目について、理解することを目標とします。

- 「市場経済の特性」
- 「貨幣の役割」
- 「市場経済と資本の関係」
- 「資本の運動と資本主義社会の性格」

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスおよびアンケート
- 第2回 1. 市場経済の特徴 市場とは何か？
- 第3回 市場経済の原則
- 第4回 市場経済と社会全体
- 第5回 商品価格は何によって決まるのか？
- 第6回 労働価値論の系譜と意味
- 第7回 唯物史観とその意味
- 第8回 2. 貨幣と通貨制度 貨幣とは何か？
- 第9回 貨幣の役割① 価値尺度と交換手段
- 第10回 貨幣の役割② 交換手段と商品流通
- 第11回 貨幣の役割③ 貨幣としての貨幣
- 第12回 通貨制度① 銀行信用の仕組み
- 第13回 通貨制度② 中央銀行制度
- 第14回 通貨制度③ 金本位制度
- 第15回 通貨制度④ 国際的管理通貨制度
- 第16回 3. 資本とその特徴 貨幣の資本への転化の意味
- 第17回 労働力商品の販売と購買
- 第18回 資本の生産過程と価値増殖
- 第19回 システムとしての資本主義
- 第20回 資本主義社会の特徴 ①「利潤追求」の意味
- 第21回 資本主義社会の特徴 ②資本主義のジレンマ
- 第22回 相対的剰余価値の概念
- 第23回 相対的剰余価値と賃金利潤関係
- 第24回 相対的剰余価値を生み出す具体的方法
- 第25回 4. 資本の蓄積過程 資本主義的生産の繰り返しと蓄積
- 第26回 蓄積と相対的過剰人口
- 第27回 5. 資本主義的生産の全体像 資本循環の3形態
- 第28回 資本の循環と4つの市場
- 第29回 資本の3形態
- 第30回 全体のまとめと振り返り

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%

レポートおよび出席は加点要素として考慮する。つまり、レポートや出席点があれば、その分試験の点数にプラスする。

【教科書】

柴田信也編著 政治経済学の原理と展開 創風社

科目名	クラス	講義区分
経済学基礎理論B 03 <春集>		
松尾 純	4単位	

【講義概要】

学習目標と授業計画を参照してください。

【学習目標】

この講義は、資本主義市場経済の最も基礎的な仕組みとそれを構成する基礎的な諸概念を理解することを目的としています。資本主義経済の基礎的な仕組みとその諸概念を理解するためには、社会を経済的側面だけから見るだけでは不十分です。この社会を構成している政治的・社会的・制度的な諸側面も含めて総合的に分析しなければなりません。

この目的を果たすために、この講義では、「経済学の歴史」（重商主義、重農主義、古典派経済学、限界革命によって成立した新古典派経済学、ケインズ経済学等）と「経済の歴史」を概観します。この作業を通じて、資本主義経済を、政治的・社会的・制度的な諸側面から包括的に理解する方法を身につけることができるように配慮しつつ講義を進めていきます。

なお、本講義は、直接的には、本学カリキュラムの「経済原論 I B」（＝マルクス経済学）の基礎を解説することを目的とします。

【講義計画】

- 第1回 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
- 第2回 経済学とは何か。経済学の目的。
- 第3回 経済の歴史の概観。原始共同体～奴隷制～封建制～資本主義～社会主義社会
- 第4回 経済学の歴史の概観①。前期重商主義。
- 第5回 経済学の歴史の概観②。後期重商主義。
- 第6回 経済学の歴史の概観③。重農主義。
- 第7回 経済学の歴史の概観④。アダム・スミスのLife and Works、彼の道徳哲学、法学講義。
- 第8回 経済学の歴史の概観⑤。アダム・スミス『国富論』解説。分業論・価値論論。分配論。
- 第9回 経済学の歴史の概観⑥。アダム・スミス『国富論』解説（続き）。資本蓄積論。
- 第10回 経済学の歴史の概観⑦。D. リカードの経済学。D. リカードのLife and Works。
- 第11回 経済学の歴史の概観⑧。D. リカードの経済学。『経済学及び課税の原理』解説。
- 第12回 経済学の歴史の概観⑨。J・S・ミルの経済学。『経済学原理』解説。
- 第13回 経済学の歴史の概観⑩。限界革命と新古典派経済学。
- 第14回 経済学の歴史の概観⑪。ケインズの経済学。
- 第15回 商品論。
- 第16回 商品論（続き）。
- 第17回 貨幣論。
- 第18回 貨幣論（続き）。
- 第19回 資本とは何か。
- 第20回 剰余価値論。
- 第21回 剰余価値論（続き）。賃金論。
- 第22回 資本蓄積論。
- 第23回 資本の流通過程。
- 第24回 利潤論。
- 第25回 信用論
- 第26回 地代論
- 第27回 現代の日本経済および国際経済を理論的に概観する。
- 第28回 講義全体の総括。

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
 学期末の試験は行わない。
 成績評価は、授業時間内に予告なしに実施する6回の小テストによって行なう。
 小テスト得点合計（各回20点満点）によって成績評価を行う。小テストの得点合計が60～69点であればC評価となり、70～79点であればB評価となり、80点以上であればAとなる。
 出欠調査は行わない。

【教科書】

市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能なかぎり、講義要旨・参考資料等の資料を配布する。資料配付は各回の講義に必要な資料をその都度その講義時間内に限って配布する。

科目名	クラス	講義区分
経済学史 <通期>		
熊谷 次郎	4単位	

【講義概要】

経済学の歴史は、経済現象を理解するために人間が試みてきた知的努力の歴史である。そうした努力は、各時代の経済学者やエコノミストが、問題解決のために経済学特有の言語を創案し、それをもとに分析の概念や装置——これらは彼らの価値観や世界観と切り離すことはできない——をつくりあげてきた過程である。したがって、一般に経済学史の講義は、時代順に学派や個人の思想や学説を取り上げるという方法がとられる。事実、昨年までの本講義もそうした方法で行なってきた。しかし本年度は、装いを改めて、経済学が追求してきたいくつかの問題群（下記の「講義計画」参照）に則して、経済学の歴史を追ってみたい。このため、講義では経済学の歴史を初期近代から現代に至るまで直線的に辿るのではなく、問題群ごとに初期近代から現代までを行ったり来たりする、歴史縦断的な形態をとることになる。こうした方法でもって、経済学が何を問題としてきたのか、それは現代の問題とどう関係するのか、ということがいっそう明確になるのではないかと考える。

【学習目標】

完成された経済学というようなものは、完成された知識がないのと同様に存在しない。経済学はむしろ相次いで現れる「さまざまな時代の経済学」という形でのみ存在する。言い換えると、経済学は他の経験諸科学の進歩や一般的な社会的・文化的の進歩と手を携えて、歴史の過程のうちに現れる。にもかかわらず、経済学は時代を貫通する共通の諸問題を扱ってきた。この経済学の歴史的性質と普遍的側面を学ぶことで、経済現象の理解を深めることが、学習目標である。世界史を学び直すという副次的効果もあろう。

【講義計画】

- 第1回 1. 経済学史とは何か
- 第2回 2. 初期近代ヨーロッパと経済学の形成
- 第3回 3. 経済循環のとらえ方——その諸相と展開
 - 3-1 貿易差額論の諸相——重商主義における外国貿易循環
- 第4回 3-2 重商主義帝国の経済循環——ダニエル・デフォー（1660-1731）
- 第5回 3-3 18世紀フランスにおける経済循環論の展開——ボアギュベール（1646-1714）、カンティロン（1680-1734）、ケネー（1694-1774）
- 第6回 3-4 アダム・スミス（1723-90）の経済循環論
 - ①生産・消費差額論——経済余剰の形成と資本蓄積
 - ②資本の投資順序と経済循環
- 第7回 3-5 リカード（1772-1823）における分配・蓄積・循環
- 第8回 3-6 マルクス（1818-83）における資本の循環運動
- 第9回 3-7 経済循環における静態と動態——シュンペーター（1883-1950）
- 第10回 4. 価値論をめぐる諸問題
 - 4-1 客観的価値論と主観的価値論
 - 4-2 ペティ（1623-87）、ロック（1632-1704）における労働の意義
 - 4-3 交換性向・分業・交換価値——アダム・スミスの価値論
 - 4-4 リカードとマルクスの労働価値論
 - 4-5 効用価値論の諸相——バーボン（1640-98）、コンディヤック（1715-80）、メンガー（1840-1921）、ジェヴォンズ（1835-82）
- 第11回 5. 需要・供給と「セー法則」
 - 5-1 セー（1767-1832）・リカード・J. S. ミル（1806-73）・マーシャル（1842-1924）における「セー法則」
- 第12回 5-2 マルクスの批判——販売=購買の分離と恐慌の可能性
- 第13回 5-3 ケインズの批判——不確実性・流動性選好・経済不況
- 第14回 6. 貨幣分析と実物分析
 - 6-1 重商主義における貿易・為替・貨幣
 - 6-2 重商主義の貨幣的分析——Money answers all things.
 - 6-3 古典派経済学の実物分析——「貨幣数量説」の意義と問題点
 - 6-4 ケインズ（1883-1946）における貨幣分析

- 第23回 7. 「見えざる手」と「巧妙な手」
7-1 アダム・スミス——「見えざる手」と「立法者の科学」
- 第24回 7-2 ジェームズ・ステュアート (1713--80) ——「巧妙な手」の役割 (雇用創出と紙券信用)
- 第25回 8. 貿易における自由と保護
8-1 重商主義における自由と保護
- 第26回 8-2 リカードウの自由貿易論
- 第27回 8-3 自由貿易論のイデオロギー——古典派経済学とマンチェスター派
- 第28回 8-4 「後進国」アメリカとドイツにおける幼稚産業保護論——アレグサンダー・ハミルトン (1757-1804) とフリードリヒ・リスト (1789-1846)

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

【参考文献】

熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義——近世ヨーロッパと経済的言語の形成——』知泉書館, 2009年。

【備考】

1. 中間試験と期末試験との総合点で評価する。
2. 毎回資料を配付する予定。資料だけ取って出て行くというような破廉恥にして卑劣な行為はしないこと。遅刻・途中退出等の際には必ず理由を言うこと。

科目名 クラス 講義区分

経済学特講-外国為替取引概説 01<春>
経済学特講-外国為替取引概説 02<秋>

伊藤 彰一

2単位

【講義概要】

In the context of world-scale globalization, it is essential to gain knowledge of foreign currency exchange transactions, whether you are involved in cross border business or not. This is an introductory course on the foreign currency exchange business. Some simple calculations will be performed in the class. You are advised to bring your calculator with you. Guest speakers will be invited as necessary.

【学習目標】

The purpose of this course is to make students informed about the foreign currency money market, and to promote the accurate comprehension of international business.

【講義計画】

- 第1回 Money and money supply
- 第2回 Bank of Japan
- 第3回 Commercial bank
- 第4回 Exchange
- 第5回 Tokyo market
- 第6回 Spot and forward
- 第7回 Exchange position
- 第8回 Bonds
- 第9回 Balance of payment
- 第10回 Exchange rate forecast
- 第11回 History of exchange in Japan
- 第12回 After US\$ domination
- 第13回 Economic globalization
- 第14回 International trade of Japan

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

【教科書】

Handouts will be provided.

【備考】

英語による授業です。
春・秋同じ講義を行います。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－外国為替取引概説 03 <春>	
伊 藤 彰 一	2単位

【講義概要】

グローバル化が世界的規模で進行する現状を考えると、外国とのビジネスに直接携わるかどうかにかかわらず、外国為替の知識を持つことが必要となる。
講義中簡単な計算を行うので、電卓持参をお勧めする。
必要に応じてゲスト講師を招聘することがある。

【学習目標】

この講座はマネーエクステンジの入門コースで、外国為替市場に関する知識を得ると同時に、国際ビジネスの正確な概念を習得することを目的としている。

【講義計画】

- 第1回 通貨とマネーサプライ
- 第2回 日本銀行
- 第3回 商業銀行
- 第4回 エクスチェンジ
- 第5回 東京市場
- 第6回 直物と先物
- 第7回 為替ポジション
- 第8回 債権市場
- 第9回 国際収支
- 第10回 為替相場予測
- 第11回 為替市場の日本史
- 第12回 ポスト米ドル支配
- 第13回 経済のグローバル化
- 第14回 日本の貿易事情

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

【教科書】

適宜資料を配布します。

【備考】

これは英語で行っている講義の日本語版です。専門用語に英語が多用されるので、英語の辞書持参をお勧めする。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－経済学部に必要な中高数学 <秋>	
三 原 裕 子	2単位

【講義概要】

本講義では経済学を学ぶ上で、最低限理解しておく必要がある数学を学ぶことを目的とします。といっても、実は経済学を理解するために必要な数学の知識の大半は、「連立方程式」と「微分」です。特に連立方程式をきちんと解けて、さらに図示さえできれば、解ける問題は非常に多いのです。しかしながら、鶴亀算は難なく解けるにもかかわらず、経済学の問題を解くにあたり、連立方程式が解ければ解けない人が多く見受けられます。この原因の一つとして、未知数を表す記号としてx、y以外の記号が用いられると、とたんに怖くなってしまわないでしょうか。高校時代に慣れ親しんできたという理由からか、記号が変わること自体に抵抗を感じる人はかなりの程度存在しているように思われます。しかも、経済学で連立方程式を解く、といっても解を出せば終わりなのではなく、求めた解を経済学的にどのように解釈するか、という力も要求されます。つまり、経済学で数式を用いる際には、単純に解を求める力+数式を日本語に訳する力 という2つが同時に要求されるため、これが過度に経済学を難しく感じさせてしまう要因となってしまうでしょう。
そこで本講義では、実際に高校レベルの数学を用いて解ける経済学の問題を紹介していこうと思います。

【学習目標】

本講義では、問題（またはテキスト）に記されている日本語にしたがって、数式を組み立てていけば、多くの問題は解ける（またはテキストを理解できる）という事を実感してもらい、さらに記号の恐怖心を取り除く事を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 方程式と関数
- 第3回 関数とグラフ
- 第4回 連立方程式の復習
- 第5回 連立方程式を用いた経済学での応用（45度線分析）
- 第6回 連立方程式を用いた経済学での応用（IS-LM分析）
- 第7回 連立方程式を用いた経済学での応用（産業連関表）
- 第8回 一変数関数の微分法
- 第9回 一変数関数の微分[問題演習]
- 第10回 微分への応用
- 第11回 連立方程式、一変数関数の微分を用いた経済学での応用例（消費者の効用最大化問題）
- 第12回 企業の利潤最大化問題
- 第13回 行列
- 第14回 行列[問題演習および経済学での応用例の紹介]

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
試験のうちわけとして、小テスト、中間試験および学期末試験を予定しています。

【参考文献】

適宜紹介します。

【備考】

テキスト指定はせず、必要なレジュメを適宜配布します。また、受講生の理解度に応じて、講義のペースが変更される場合がありますので、ご了承ください。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－就職試験対策のための数学 <春>	
三原 裕子	2単位

【講義概要】

総合適性検査（SPI）は、採用選考時における筆記試験として多くの企業で実施されています。もともとSPIは企業の人事選考等において、適材適所を把握するために利用されていましたが、現在では企業サイドが多数の応募者を絞り込むために適性検査が実施されるようになってきました。

SPIは能力適性検査と性格適性検査とに分かれており、特に能力適性検査では、言語能力や数学の問題を中心とした論理的思考・数理解能力等（非言語能力検査）が試されます。しかし、非言語能力検査では、思考、判断、作業の早さおよび正確さを測定するために行うもので、その出題内容としては、中学から高校レベルの問題が中心に出題されます。ところが、難易度は中学レベルといえども時間制限に比べると問題数が多いということから、少しでも早い段階でとにかくたくさん問題をこなして、慣れることが肝心です。そこで、少しでも多くの問題を、かつより早く解けるようになるために、徹底的に問題を解いていこうと思います。

また本講義では、初回にアンケートを行い、みなさんが苦手だという問題を優先的に講義を進めていく予定です。

【学習目標】

本講義の目標は、非言語能力の中でも特に数学を中心に、数多くの問題を解くことで就職試験に備え、さらに半年間で各自が苦手である分野を克服する事を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスおよびアンケート
- 第2回 推論[講義と問題演習]
- 第3回 推論[問題演習]
- 第4回 集合[講義と問題演習]
- 第5回 集合[問題演習]
- 第6回 順列[講義と問題演習]
- 第7回 組み合わせ[講義と問題演習]
- 第8回 順列、組み合わせ[問題演習]
- 第9回 確率[講義]
- 第10回 確率[問題演習]
- 第11回 確率[問題演習]
- 第12回 表の読み取り[講義と問題演習]
- 第13回 表の読み取り[問題演習]
- 第14回 損益算、速さ・距離・時間[講義と問題演習]

【成績評価の方法】

試験 100% 出席 0%

試験の内訳として、小テスト、中間テスト、学期末試験を予定しています。

【参考文献】

適宜指示します。

【備考】

レジメを適宜配布します。また、受講生の理解度に応じて、講義のペースが変更される場合があります。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－知的財産権 <春>	
辻 洋一郎	2単位

【講義概要】

「特許」というコトバは知っていますか？特許は知的財産権のひとつで、産業の振興には欠かせない社会的な仕組みです。最近、特許をはじめ、知的財産権が社会的にも重要視されるようになってきました。これから社会で働き、生きて行くために知的財産権の概要を十分理解しておく必要があります。本講義では、知的財産権の概要とその社会的役割などについて講義します。

【学習目標】

知的財産「権」について、初歩的な概念と内容を理解することを目標とします。尚、以下の授業計画は順不同で、受講生のレベルに合わせて適宜変更することがあります。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 知的財産権とは？
- 第3回 特許の知識①
- 第4回 特許の知識②
- 第5回 特許の知識③
- 第6回 特許の知識④
- 第7回 特許の知識⑤
- 第8回 特許の知識⑥
- 第9回 特許の知識⑦
- 第10回 特許の知識⑧
- 第11回 著作権の知識①
- 第12回 著作権の知識②
- 第13回 その他の知的財産権
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

【教科書】

講義中に適宜指示します。

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講 - 日本経済入門 <春>	
伊代田 光彦	2単位

【講義概要】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

This lecture focuses on the following three points. First are the bright sides in the economy. Here we refer to the results of economic growth from various aspects: per capita income, spreading rate of durable goods, social security, etc.

Second are harmful side effects of the economic change. We here deal with environmental disruption, inflation, income distribution, etc.

Finally we deal with an ideal economy through an assessment of bright and gloomy sides of economic change during the past half century.

【学習目標】

The purpose of this lecture is: (a) to understand the real meaning of economic growth through the study of the positive and negative effects of economic growth, and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.

I hope you will accept the challenge of a lecture conducted entirely in English. Do not hesitate to attend the lecture. The most important things are your spirit and regular attendance.

【講義計画】

- 第1回 1. Introduction
Introduction (lecture guide, plan, etc.)
- 第2回 2. Historical Changes of the Japanese Economy
Facts (economic growth and price increase)
- 第3回 Facts (changes of economic structure)
- 第4回 Reforms (major reforms)
- 第5回 * Presentation by the students
Education systems and problems in each country
- 第6回 The beginning of strong growth
- 第7回 3. Rapid Economic Growth
General background
- 第8回 Some reasons
- 第9回 Government policy
- 第10回 4. Results of Economic Growth
Positive effects
- 第11回 Negative effects
- 第12回 Towards welfare-oriented society (market failures in the
measurement of GDP)
- 第13回 NNW (Net National Welfare) and Happiness Research
- 第14回 5. Concluding Remarks
The quality of life

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

Evaluation will be based on attendance (30%), and two papers (reports) (70%).

【教科書】

Handouts will be provided.

Short reading series will be provided.

【参考文献】

- Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology.
- Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap. 3, Cambridge University Press.
- Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講 - 日本の企業経営に学ぶ経済 <春>	
中野 瑞彦	2単位

【講義概要】

The purpose of this course is to learn business policies and business management of Japanese big companies such as Sony Corporation and Toyota Motor Corporation. We will try to recognize their success factors as well as failure causes and to evaluate their business strategies and financial results. All lectures will be done in English. Fairly good level of English ability is required. Attendants are requested to understand key issues of business concepts.

【学習目標】

Our aim is to analyze industrial structures and business strategies of particular companies in Japan. Please refer to the following schedule for industries covering targeted companies. The order of industries would change due to conditions.

【講義計画】

- 第1回 01 Guidance and Japanese business history
- 第2回 02 Steel Industry
- 第3回 03 Textile and Chemical Industry
- 第4回 04 Electronics and Media Industry (1)
- 第5回 05 Electronics and Media Industry (2)
- 第6回 06 Optical and Precision Industry
- 第7回 07 Life Insurance Industry
- 第8回 08 Commodity goods and Cosmetics Industry
- 第9回 09 Consumer Retail Industry
- 第10回 10 Motor Vehicle Industry (1)
- 第11回 11 Motor Vehicle Industry (2)
- 第12回 12 Mobile phone Industry
- 第13回 13 Music Instruments Industry
- 第14回 14 Final Exam

【成績評価の方法】

試験 100%

Monthly short exams (presumably three times) with 20 points per each and final exam with 40 points. All answers should be written in English.

【教科書】

Handouts will be given at the beginning of each session.

【参考文献】

They will be indicated in the first session.

【備考】

英語による講義です。

か
行

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－マーケティング概論－自動車 <秋>	
門 脇 轟 二	2単位

【講義概要】

自動車産業を事例にマーケティングの概念を概説する。

【学習目標】

マーケティングの基本用語の理解と実習。

【講義計画】

- 第1回 日本での最近のマーケティング上の問題点、マーケティングの概念の起源
- 第2回 日本のマーケティングの概念と自動車産業の勃興
- 第3回 アメリカにおけるマーケティングの概念の発展
- 第4回 日本におけるマーケティング概念の発展
- 第5回 マーケティングの4P、PRODUCT（製品）1.
- 第6回 マーケティングの4P、PRODUCT（製品）2.
- 第7回 マーケティングの4P、PRICE（価格）
- 第8回 マーケティングの4P、PLACE（流通チャネル）
- 第9回 マーケティングの4P、PROMOTION（販売促進）
- 第10回 マーケティング・リサーチ（市場調査）
- 第11回 マーケティング戦略の策定、SWOT分析
- 第12回 顧客と消費行動
- 第13回 マーケティング上の課題と提言

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 70%

講義の合間に不定期に4回レポートを課す。指定した時間にレポートを提出したものは、出席とみなす。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影 <秋>	
伊代田 光 彦	2単位

【講義概要】

During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?

The lecture shows historical changes of the Japanese economy by using tables and figures in the beginning. Then it focuses on the following three points: (a) rapid economic growth and its bright and gloomy sides, (b) the bubble economy and its consequences, and (c) some current topics. We show some lessons from the lecture above (a) and (b).

【学習目標】

The purpose of this lecture is: (a) to learn some lessons from rapid economic growth and the bubble economy, and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.

【講義計画】

- 第1回 1. Introduction
Introduction (lecture guide, plan, etc.)
- 第2回 2. Historical Changes of the Japanese Economy
Facts (economic growth, economic structure)
- 第3回 Reforms and the beginning of strong growth
- 第4回 *Presentation by the students
Education system and the problems in his or her country
- 第5回 3. Rapid Economic Growth
General background
- 第6回 Positive effects
- 第7回 Negative effects
- 第8回 From the GNP-focused growthmanship to welfare-oriented society
- 第9回 4. Bubble Economy and its Consequences
Bubble age (burst, triggering role of policies)
- 第10回 The process of bursting the bubble
- 第11回 Its consequences (bad loan, outstanding government bonds)
- 第12回 5. Some Current Topics
Income and asset distribution
- 第13回 Typical household and pension scheme
- 第14回 6. Concluding Remarks
The quality of life

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%

Evaluation will be based on attendance (30%), and two papers (reports) (70%).

【教科書】

Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.

【参考文献】

- Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap. 3, Massachusetts Institute of Technology.
- Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap. 3, Cambridge University Press.
- Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap. 4, Palgrave.

【備考】

英語による講義です。
<02～04生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－英語で学ぶ世界の中の日本 <秋>	
モグベル ザファル	2単位

【講義概要】

This is an introductory course on the Japanese economy with a focus on the status of Japan in the global economy and its basic international economic strategies and achievements in the postwar period. Lectures will focus on familiarizing economics and non-economics majors with Japan's basic policy framework for its international economic relations and on examining the course of Japan's progress from postwar reconstruction to global economic superpower.

Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and tests will also be written in English. Therefore, a high level of English comprehension is required.

【学習目標】

The purpose of this course is to gain a general knowledge of: Japan's position in the global economy; global developments affecting Japan's economic performance since the 1980s; Japan's global economic strategies; and problems and challenges facing Japan in the process of globalization.

【講義計画】

- 第1回 The Japanese economy in the world economy today
- 第2回 Statistical overview
- 第3回 Japan's postwar development model
- 第4回 Challenges of globalization
- 第5回 Some non-economic issues: Declining Japan
- 第6回 Some non-economic issues: Resurgent Japan
- 第7回 Japan as a member of the East Asian Community
- 第8回 Japan's struggles with the challenges of globalization: Cultural and human aspects
- 第9回 Japan's struggles with the challenges of globalization: Political and economic aspects
- 第10回 Japan's foreign trade: policies, strategies, achievements
- 第11回 Japan's international economic negotiations: 1985-1993
- 第12回 Recent developments in Japan's balance of payments
- 第13回 Foreign investment: policies, strategies, achievements
- 第14回 Summarization and Review

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and reports submitted.

【参考文献】

No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will serve as a basis for instruction and discussion.

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－英語で学ぶ戦後日本経済 <春>	
モグベル ザファル	2単位

【講義概要】

This is an introductory course on the Japanese economy focused on the domestic aspects of postwar development. The purpose is to familiarize economics majors and non-majors with the basic framework of the present-day Japanese economy and some salient domestic economic events and developments that have determined the course of the nation's postwar economic progress. Lectures will cover key issues in each of the six postwar decades and will close with a speculative vision of Japan in the year 2020 with a focus on what role Japan can be expected to play in the global economy of the 21st century. Lectures and class discussions will be conducted exclusively in English and reports will also be written in English. A high level of English comprehension is required.

【学習目標】

The purpose of this course is to gain a general knowledge of: the postwar development path of the Japanese economy; the successes and failures of Japan's growth strategy; and current economic problems and challenges.

【講義計画】

- 第1回 Overview of the Japanese economy today
- 第2回 Statistical overview
- 第3回 Dimensions of Japan's economic power and influence
- 第4回 Japan's demographic crisis
- 第5回 Phoenix risen from the ashes: rejoining the community of nations
- 第6回 Income-Doubling Plan and the era of accelerated economic growth
- 第7回 Limits to growth: environmental crisis and oil shocks
- 第8回 Japan bashing and the logic of incremental adjustment
- 第9回 Plaza Accord and learning to live with the strong yen
- 第10回 Bubble economy: policy failure and irrational exuberance
- 第11回 Limits of Japan's postwar economic model and the lingering post-bubble crisis
- 第12回 Vision for Japan in 2020
- 第13回 Summarization and Review
- 第14回 Summarization and Review

【成績評価の方法】

レポート 60% 出席 40%

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, and reports submitted.

【参考文献】

No textbook will be assigned. Handouts will accompany each lecture and will be used as a basis for instruction and discussion.

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－経済学検定試験対策講座A <春>	
三原裕子	2単位

【講義概要】

本講義では、過去に経済学検定試験（特に、ミクロ経済学）において実際に出题された（またはそれに類似した）問題を解く事を通じて、経済学の知識を身につける事を目的とします。

経済学検定試験とは、大学4年間を通じて経済学の知識をどれだけ身につけたのか、という事を客観的に測る試験として利用されています。よって、就職活動において、他者と差別化を図るための手段として、経済学検定試験の結果を用いる事は十分に有益になるでしょう。その内容としては、比較的容易なものから難題なものまでさまざまです。さらに、問題の質としては公務員試験のそれと非常に類似しており、公務員試験対策としても十分に活用できるはずですが、ただし、経済学検定試験にしても、公務員試験にしても、確実に言える事は、問題を解く際には理論的な思考が要求されるという事です。また、丸暗記によって対応できる問題は少なく、その意味でいかに手を動かしたか、という事が高得点を取る決め手になるといえます。

以上を踏まえて、本講義では丸暗記に頼る事なく、経済学の問題を解くための実践的な力を養います。

【学習目標】

本講義の最終目標としては、理論的な思考を養いつつ、数多くの問題を解く事を通じて、最低限、ミクロ経済学における基礎的な問題を難なく解けるようになる事を目指します。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスおよび経済学検定試験を解く上で最低限必要となる数学を学習
- 第2回 経済数学
- 第3回 消費者理論の概要[講義]
- 第4回 消費者理論[問題演習(1)]
- 第5回 消費者理論に関する[問題演習(2)]
- 第6回 生産者理論の概要[講義]
- 第7回 生産者理論[問題演習]
- 第8回 完全競争市場における生産者の行動[講義]
- 第9回 完全競争市場化における生産者の行動[問題演習]
- 第10回 不完全競争市場における生産者の行動(独占)[講義]
- 第11回 不完全競争市場における生産者の行動(独占)[問題演習]
- 第12回 不完全競争市場における生産者の行動(復占、寡占)[講義]
- 第13回 不完全競争市場における生産者の行動(復占、寡占)[問題演習]
- 第14回 ゲーム理論[講義および問題演習]

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

試験のうちわけとして、小テスト、学期末試験、中間試験（こちらは行わない場合有）を行う予定です。ただし、小テストの代替として宿題を課す場合があります。

【参考文献】

適宜紹介します。

【備考】

テキスト指定は行いません。代わりに、レジュメを配布します。なお、受講生の理解度に応じて講義内容の変更、および講義のペースが変更される場合があります。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－経済学検定試験対策講座B <秋>	
三原裕子	2単位

【講義概要】

本講義では、マクロ経済学を中心に、過去に経済学検定試験において実際に出题された（またはそれに類似した）問題を解く事を通じて、経済学の知識を身につける事を目的とします。

マクロ経済学を学ぶ際に、ミクロ経済学以上に丸暗記に頼る人が多く見受けられます。ところが、マクロ経済学では暗記すれば事足りる「公式」は存在しません。よって、問題を解く際には、問題において想定されている世界観をきっちり整理してから、問題を解く必要があります。

そこで、本講義では問題を解くという力を養う事は当然のことながら、世界観をもきちんと整理するための力をも同時に養います。

【学習目標】

本講義の最終目標は、基本的なマクロ経済学の世界観をきちんと整理し、少なくとも経済学検定試験に出题された基本的な問題、若干の応用問題を臆することなく解けるようになる事を目標とします。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスおよび講義にあたって必要な数学を講義
- 第2回 経済数学
- 第3回 国民経済計算[講義]
- 第4回 国民経済計算[問題演習]
- 第5回 産業連関表[講義]
- 第6回 産業連関表[問題演習]
- 第7回 45度線分析[講義]
- 第8回 45度線分析[問題演習]
- 第9回 IS-LM分析[講義]
- 第10回 IS-LM分析[問題演習(1)]
- 第11回 IS-LM分析[問題演習(2)]
- 第12回 成長理論[講義－ハロッド ドーナー理論－]
- 第13回 成長理論[講義－新古典派成長理論－]
- 第14回 成長理論[問題演習]

【成績評価の方法】

試験 80% 出席 20%

試験のうちわけとして、小テスト、中間試験、学期末試験を予定していますが、小テストに関してはその代替として宿題を課す場合があります。

また、中間試験は行わない場合もあります。

【参考文献】

適宜紹介します。

【備考】

テキスト指定はせず、適宜レジュメを配布します。

また、受講生の理解度に応じて授業計画におけるペースが若干変更される場合もありますので、ご了承ください。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講 - 現代日本経済の統計分析 <秋>	
荒木 英一	2単位

【講義概要】

This is an introductory course of statistical analyses with a special focus on the current Japanese economy. The first three classes will be dedicated to elementary lectures of econometrics. Then, we will choose some topics on the Japanese economy, for each of which I will give you a general explanation and you will carry out an econometric analysis according to my guidance.

【学習目標】

The purpose of this course is to cultivate your understanding of the Japanese economy and to provide you with some general analytical techniques through the practice of statistical analyses.

【講義計画】

- 第1回 An introduction to descriptive statistics
- 第2回 An introduction to regression analysis
- 第3回 An introduction to statistical inferences
- 第4回 An overview of the current Japanese economy
- 第5回 Decomposition analysis of GDP
- 第6回 Regression Analysis (1)
- 第7回 Regression Analysis (2)
- 第8回 Looking at the projection of Japan's trade surpluses based on past trends
- 第9回 Estimation of technical progress
- 第10回 Characteristics of the Japanese financial system
- 第11回 The Bubble and the Lost Decade
- 第12回 Structural changes in the Japanese economy (1 . Employment practice)
- 第13回 Structural changes in the Japanese economy (2. Gap between rich and poor)
- 第14回 Structural changes in the Japanese economy (3 . Technical progress)

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%

【参考文献】

Handouts will be provided.
All the materials can be browsed in my website:
<http://rio.andrew.ac.jp/araki/>

【備考】

英語による講義です。

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講 - 自動車産業論 <春>	
門脇 轟二	2単位

【講義概要】

自動車産業の発展の歴史を振り返りながら、現在直面している問題を考察する。

【学習目標】

自動車産業の直面している課題を考察する。

【講義計画】

- 第1回 現在の自動車産業の状況を概観。
- 第2回 自動車の発明
- 第3回 ヨーロッパでの自動車の発展とアメリカへの伝播
- 第4回 アメリカの自動車産業の勃興
アメリカでの自動車産業の発展—BIG 3 の誕生
- 第5回 世界大恐慌と自動車産業、ヨーロッパの自動車産業、日本の自動車産業の勃興
- 第6回 ヨーロッパの国民車構想
- 第7回 日本及びアジアの国民車構想
- 第8回 日本の自動車産業の復興
- 第9回 世界の自動車産業の発展 (1960~1980年)
- 第10回 世界の自動車産業の発展 (1980~2000年)
- 第11回 中国の自動車産業の発展
- 第12回 日米自動車摩擦—自動車輸出自主規制、構造協議、経済包括協議
- 第13回 自動車の環境省エネ対策
自動車の環境、省エネ対策
- 第14回 今日の自動車産業と課題

【成績評価の方法】

試験 30% レポート 70%
講義の合間に不定期に4回にわたってレポートを課す。このレポートを指定時間に提出した人は出席とみなす。

か
行

科目名 クラス 講義区分	
経済学特講－ファッション産業論 <通期>	
富澤修身	4単位

【講義概要】

まず、現代のファッションとファッション産業の概観を論じる。本論の第1部「資本主義社会とファッション」では消費生活サイドから論じる。第2部「ファッション産業論」では供給サイドから論じる。第2部では、クリエイション、マーケットイン、情報技術の活用、広告、グローバル化、都市とファッション、地球環境配慮とユニバーサルファッションについて論じる。

【学習目標】

身近なファッションを取り上げて、学問をする意味や楽しさを学ぶ。ファッションの奥深さを実感して欲しい。また、ファッションビジネスに関心ある学生は、1年間受講すれば、ファッションとファッション産業についての十分な知識を習得することができる。就職活動にも役立つ。

【講義計画】

- 第1回 はじめに
- 第2回 1. 社会、衣服、ファッションビジネス(1)
- 第3回 1. 社会、衣服、ファッションビジネス(2)
- 第4回 2. 資本主義社会における消費(1)
- 第5回 2. 資本主義社会における消費(2)
- 第6回 3. 衣服の変化とファッション現象(1)
- 第7回 3. 衣服の変化とファッション現象(2)
- 第8回 3. 衣服の変化とファッション現象(3)
- 第9回 4. 20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化(1)
- 第10回 4. 20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化(2)
- 第11回 5. 世界繊維産業の見取り図(1)
- 第12回 5. 世界繊維産業の見取り図(2)
- 第13回 6. 3大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容(1)
- 第14回 6. 3大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容(2)
- 第15回 7. 日本のファッション産業システム(1)
- 第16回 7. 日本のファッション産業システム(2)
- 第17回 7. 日本のファッション産業システム(3)
- 第18回 8. ファッション産業システムの情報化(1)
- 第19回 8. ファッション産業システムの情報化(2)
- 第20回 9. ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動(1)
- 第21回 9. ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動(2)
- 第22回 10. 縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部(1)
- 第23回 10. 縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部(2)
- 第24回 11. ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業(1)
- 第25回 11. ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業(2)
- 第26回 12. 都市生活のファッション化とファッションビジネス創造
- 第27回 13. 繊維アパレル産業と社会的責任
- 第28回 14. 終章

【成績評価の方法】

レポート 70% 出席 30%
レポートは、前期と後期に提出してもらう。講義の区切りのよいところで授業時間の10分ほどを使って小レポートを作成してもらう。6割以上の出席回数が大前提。

【教科書】

富澤修身 ファッション産業論 創風社

科目名 クラス 講義区分	
経済学入門 [編入生用] <通期>	
一ノ瀬 篤	4単位

【講義概要】

「学習目標」の項を参照。

【学習目標】

経済学というよりは、経済現象・経済問題に関する基礎知識の説明・学習を目標とする。

【講義計画】

- 第1回 生産と流通
- 第2回 消費と投資
- 第3回 貯蓄
- 第4回 資本主義と社会主義
- 第5回 経済成長：資本の蓄積
- 第6回 経済成長の指標
- 第7回 国民所得概念
- 第8回 国民所得の流れ
- 第9回 貿易の役割
- 第10回 国際取引、国際収支
- 第11回 日本の国際収支
- 第12回 為替相場
- 第13回 為替相場の決定①
- 第14回 為替相場の決定②
- 第15回 中間試験
- 第16回 金本位制度
- 第17回 IMF制度
- 第18回 変動相場制への移行
- 第19回 銀行の役割
- 第20回 中央銀行の役割
- 第21回 株式会社と株式市場
- 第22回 租税と国債
- 第23回 財政支出の意義
- 第24回 ケインズの思想
- 第25回 マネタリズム・マネタリスト
- 第26回 回顧①：経済体制
- 第27回 回顧②：国際収支と為替相場
- 第28回 回顧③：国債累積のはらむ問題
- 第29回 期末試験

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
上記の試験には、中間試験、期末試験のほかに、折々の小テストを含む。

【教科書】

書物は用いず、一ノ瀬作成のレジメによる。

科目名 クラス 講義区分	
経済学のための数学入門 <春集>	
藤 間 真	4単位

【講義概要】

経済学部は文系だとされています。しかし、経済学を理解するには数学の素養があった方がはるかに効果的に理解できます。しかも、高校までの数学とは少し毛色の違った数学ですし、入試対策のテクニック等は不要ですから、今まで苦手に思ってきた諸君でも、再スタートだと思って努力すれば経済学部で要求される数学の基礎は理解できるはずですよ。

小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。

なお、場合によっては、PCを利用することも有り得ますが、高等学校で教科「情報」を履修していれば問題ない程度の利用にとどめる予定です。

【学習目標】

この講義の目的は、経済学の視点から小中高の数学、特に「論理」「数と式」「数の計算」「一次・二次方程式」「確率」「統計」「微分」「行列」を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。

なお、2008年度以前の同名の科目から展開方向などの変更を予定しています。

【講義計画】

第1回 第一回にオリエンテーションを行います。また、第27回以降は、総まとめを予定しています。

その間に、「論理と表現」「数と式」「数の計算」「一次・二次方程式」「確率・統計」「微分」「行列」について、演習を交えながら講義します。

問題演習によって、受講生の理解度を頻繁にはかりその結果に応じて各内容の難易度と進度を調整しますので、下記予定に変更があることは十分予想されます。その変更については、講義中にアナウンスする予定です。

- 第2回 論理と表現
- 第3回 論理と表現
- 第4回 論理と表現
- 第5回 確率・統計
- 第6回 確率・統計
- 第7回 確率・統計
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 数と式
- 第10回 数と式
- 第11回 行列
- 第12回 行列
- 第13回 行列
- 第14回 行列
- 第15回 行列
- 第16回 中間まとめ
- 第17回 一次・二次方程式
- 第18回 一次・二次方程式
- 第19回 一次・二次方程式
- 第20回 一次・二次方程式
- 第21回 中間まとめ
- 第22回 微分
- 第23回 微分
- 第24回 微分
- 第25回 微分
- 第26回 微分
- 第27回 総まとめ
- 第28回 総まとめ
- 第29回 総まとめ
- 第30回 総まとめ

【成績評価の方法】

講義で扱った各分野について、中間レポート、期末試験、期末レポートの点数の最大のものをその分野の得点として、それらの合計で評価します。

なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、

きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。

詳細は、オリエンテーション時に示します。

【参考文献】

講義中に指示します。

科目名	クラス	講義区分
経済原論 01 <通期>		
大澤	健	4単位

【講義概要】

私たちが暮らしているのは「市場経済」あるいは「資本主義」と言われる社会です。1990年以降、グローバリゼーションが進行し、「市場経済」が世界を覆い尽くしています。

この講義では、世界に広がる「市場」や「資本」の基本的な性質を解説しながら、われわれの社会の基本的な仕組みをより深く学ぶことを目指しています。

【学習目標】

「市場」「貨幣」「資本」といったわれわれの社会の基本的なキーワードの意味を理解するとともに、それがどのような仕組みで社会を動かしているのかを学ぶ。

【講義計画】

第1回 【春学期】市場と資本

- ①市場と資本の関係
- ②資本主義社会の基本的な性格
2. 資本の全体像
 - ①資本の循環と資本主義の運動
 - ②資本の三形態と資本主義の全体像

【秋学期】資本主義の歴史

3. 資本主義の発展
 - ①資本主義の始まりと拡大
 - ②20世紀の社会－国家対市場－
 - ③グローバリゼーションと21世紀の資本主義

- | | | |
|------|-------------|------------------------|
| 第2回 | 1. 市場経済 | 市場経済の仕組み |
| 第3回 | | 貨幣の諸機能と商品流通 |
| 第4回 | | 通貨制度と信用制度 |
| 第5回 | 2. 資本の生産過程 | ①資本と資本主義的生産過程 |
| 第6回 | | ②資本主義の基本的性格その1 |
| 第7回 | | ③資本主義の基本的性格その2 |
| 第8回 | | ④相対的剰余価値とイノベーション |
| 第9回 | | ⑤蓄積と相対的過剰人口 |
| 第10回 | 3. 資本の流過程 | ①資本の循環 |
| 第11回 | | ②資本の循環と流通費 |
| 第12回 | | ③資本の回転 |
| 第13回 | | ④資本の回転とストックフロー |
| 第14回 | | ⑤資本主義的再生産過程その1 |
| 第15回 | | ⑥資本主義的再生産過程その2 |
| 第16回 | 4. 資本主義の総過程 | ①剰余価値と利潤 |
| 第17回 | | ②平均利潤 |
| 第18回 | | ③商業資本その1 商品取扱資本 |
| 第19回 | | ④商業資本その2 貨幣取扱資本 |
| 第20回 | | ⑤利子生み資本その1 |
| 第21回 | | ⑥利子生み資本その2 |
| 第22回 | | ⑦地代 |
| 第23回 | 5. 資本主義の全体像 | ①資本主義的循環の全体像その1 |
| 第24回 | | ②資本主義的循環の全体像その2 |
| 第25回 | 6. 資本主義の発展 | ①大航海時代と重商主義 |
| 第26回 | | ②産業革命と帝国主義 |
| 第27回 | | ③第二次世界大戦と戦後の世界その1 |
| 第28回 | | ④第二次世界大戦と戦後の世界その2 |
| 第29回 | | ⑤資本主義の変容とグローバリゼーションその1 |
| 第30回 | | ⑥資本主義の変容とグローバリゼーションその2 |

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 10% 出席 10%
 レポートおよび出席については加点要素として考慮します。つまり、レポートや出席による減点はしませんが、あればその分がプラスになります。

【教科書】

柴田信也編著 政治経済学の原理と展開 創風社

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
経済原論 02 <春集>		
滝田	和夫	4単位

【講義概要】

この講義ではマルクスの経済学について解説する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に、マルクスの経済学の体系的理解を目標として講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。

「授業計画」の「期末テスト」については期間内試験を予定しているが、受講者数が少ない場合には期間外試験（第28回目）で行うかもしれないので注意していただきたい。

【学習目標】

マルクスの経済学の基礎的な概念の習得と体系的理解を目標とする。

【講義計画】

- | | | |
|------|-----|----------------------------------|
| 第1回 | 1 | 経済学の対象と方法 1 |
| 第2回 | 1 | 経済学の対象と方法 2 |
| 第3回 | 2 | 市場経済 2.1 はじめに 2.2 商品とは何か |
| 第4回 | 2.3 | 商品経済 1 |
| 第5回 | 2.3 | 商品経済 2 |
| 第6回 | 2.3 | 商品経済 3 |
| 第7回 | 2.3 | 商品経済 4 |
| 第8回 | 2.3 | 商品経済 5 |
| 第9回 | 2.4 | 貨幣経済 1 |
| 第10回 | 2.4 | 貨幣経済 2 |
| 第11回 | 2.4 | 貨幣経済 3 |
| 第12回 | 3 | 資本とその増殖 3.1 はじめに 3.2 資本の増殖 |
| 第13回 | 3.3 | 労働力商品 |
| 第14回 | | 中間テスト |
| 第15回 | 3.4 | 資本の生産過程 1 |
| 第16回 | 3.4 | 資本の生産過程 2 |
| 第17回 | 3.4 | 資本の生産過程 3 |
| 第18回 | 4 | 価格と利潤 4.1 はじめに 4.2 個別的価値と市場価値 1 |
| 第19回 | 4.2 | 個別的価値と市場価値 2 |
| 第20回 | 4.3 | 生産価格、一般的利潤率の形成 1 |
| 第21回 | 4.3 | 生産価格、一般的利潤率の形成 2 |
| 第22回 | 4.3 | 生産価格、一般的利潤率の形成 3 |
| 第23回 | 5 | 資本の再生産と蓄積 5.1 はじめに 5.2 資本の蓄積過程 1 |
| 第24回 | 5.2 | 資本の蓄積過程 2 |
| 第25回 | 5.2 | 資本の蓄積過程 3 |
| 第26回 | 5.3 | 社会的総資本の再生産過程 1 |
| 第27回 | 5.3 | 社会的総資本の再生産過程 2 |
| 第28回 | 5.3 | 社会的総資本の再生産過程 3 |
| 第29回 | | 期末テスト |

【成績評価の方法】

試験 90% レポート 0% 出席 10%
 基本的に中間試験、期末試験の成績によるが、出席を若干加味する。

【教科書】

平井規之・北川和彦・滝田和夫 経済原論 有斐閣

【参考文献】

置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房
 森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（『森嶋通夫著作集7』）岩波書店

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経済原論 03 <秋集>	
松尾 純	4単位

【講義概要】

学習目標と講義計画を参照して下さい。

【学習目標】

「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。

他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入ってますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。

本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、多数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における「再構築」を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。

【講義計画】

- 第1回 講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
- 第2回 マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。
- 第3回 労働疎外論とは何か。
- 第4回 マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。
- 第5回 マルクスが描いた社会主義像。
- 第6回 ソ連・東欧の「社会主義」の歴史。
- 第7回 中国の社会主義の歴史と現状。
- 第8回 経済学の対象と方法。
- 第9回 商品論Ⅰ。価値実体論。
- 第10回 商品論Ⅱ。価値形態論。
- 第11回 貨幣論Ⅰ。貨幣の基本的機能（価値尺度、主通手段）。
- 第12回 貨幣論Ⅱ。本来の貨幣の諸機能。
- 第13回 貨幣の資本への転化論。
- 第14回 資本の本源的蓄積。
- 第15回 剰余価値論Ⅰ。剰余価値の生産方法。
- 第16回 剰余価値論Ⅱ。資本主義における労働生産力の発展。
- 第17回 資本蓄積論Ⅰ。
- 第18回 資本蓄積論Ⅱ。
- 第19回 資本の流通過程。資本の循環。資本の回転。
- 第20回 資本の流通過程。再生産表式論。
- 第21回 利潤論Ⅰ。利潤・平均利潤・費用価格・生産価格。
- 第22回 利潤論Ⅱ。利潤率の傾向的低下法則論
- 第23回 商業資本論。
- 第24回 利子生み資本論。
- 第25回 信用論Ⅰ
- 第26回 信用論Ⅱ
- 第27回 地代論。差額地代論。絶対地代論。
- 第28回 講義の総括。

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%

学期末の試験は行わない。

成績評価は、授業時間内に予告なしに実施する6回の小テストによって行なう。

小テスト得点合計（各回20点満点）によって成績評価を行う。小テストの得点合計が60～69点であればC評価となり、70～79点であればB評価となり、80点以上であればAとなる。

出欠調査は行わない。

【教科書】

市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能なかぎり、講義要旨・参考資料等の資料を配布する。資料配付は各回の講義に必要な資料をその都度その講義時間内に限って配布する。

【参考文献】

参考書は授業時間中に適宜お知らせします

【備考】

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I a 01 <秋>	
麻生 憲一	2単位

【講義概要】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（Visual Basic for Application）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】

アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 表計算ソフト基本操作のまとめ
- 第2回 マクロの自動記録機能
- 第3回 プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
- 第4回 プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
- 第5回 複利計算プログラムの作成
- 第6回 データ型の設定
- 第7回 データ整列プログラム
- 第8回 データ探索プログラム
- 第9回 計算とプログラムの効率化
- 第10回 金融計算プログラムの作成
- 第11回 計測と制御
- 第12回 C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
- 第13回 統計ソフトの利用法
- 第14回 統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 10% 出席 40%

出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I a 02 <秋>	
麻 生 憲 一	2 単位

【講義概要】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】

アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 表計算ソフト基本操作のまとめ
- 第2回 マクロの自動記録機能
- 第3回 プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
- 第4回 プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
- 第5回 複利計算プログラムの作成
- 第6回 データ型の設定
- 第7回 データ整列プログラム
- 第8回 データ探索プログラム
- 第9回 計算とプログラムの効率化
- 第10回 金融計算プログラムの作成
- 第11回 計測と制御
- 第12回 C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
- 第13回 統計ソフトの利用法
- 第14回 統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 10% 出席 40%
出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I a 03 <秋>	
井 田 憲 計	2 単位

【講義概要】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】

アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 表計算ソフト基本操作のまとめ
- 第2回 マクロの自動記録機能
- 第3回 プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
- 第4回 プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
- 第5回 複利計算プログラムの作成
- 第6回 データ型の設定
- 第7回 データ整列プログラム
- 第8回 データ探索プログラム
- 第9回 計算とプログラムの効率化
- 第10回 金融計算プログラムの作成
- 第11回 計測と制御
- 第12回 C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
- 第13回 統計ソフトの利用法
- 第14回 統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
[中間レポート]教務課へ提出（1回）、[出席点]毎回の出席と講義時間中の課題提出（不定期）、[試験]コンピュータを利用した課題、となる予定。

【教科書】

特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I a 04 <秋>	
村 松 郁 夫	2単位

【講義概要】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】

アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 表計算ソフト基本操作のまとめ
- 第2回 マクロの自動記録機能
- 第3回 プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
- 第4回 プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
- 第5回 複利計算プログラムの作成
- 第6回 データ型の設定
- 第7回 データ整列プログラム
- 第8回 データ探索プログラム
- 第9回 計算とプログラムの効率化
- 第10回 金融計算プログラムの作成
- 第11回 計測と制御
- 第12回 C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
- 第13回 統計ソフトの利用法
- 第14回 統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 60% 出席 40%

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I a 05 <秋>	
義 永 忠 一	2単位

【講義概要】

あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】

アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 表計算ソフト基本操作のまとめ
- 第2回 マクロの自動記録機能
- 第3回 プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
- 第4回 プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
- 第5回 複利計算プログラムの作成
- 第6回 データ型の設定
- 第7回 データ整列プログラム
- 第8回 データ探索プログラム
- 第9回 計算とプログラムの効率化
- 第10回 金融計算プログラムの作成
- 第11回 計測と制御
- 第12回 C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
- 第13回 統計ソフトの利用法
- 第14回 統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

【教科書】

オリジナル資料をコピーして配布します。

【参考文献】

適宜、指示します。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I b 01 <春>	
麻 生 憲 一	2単位

【講義概要】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】

情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
- 第2回 行政機関の経済情報へのアクセス
- 第3回 統計資料・調査レポートへのアクセス
- 第4回 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
- 第5回 経済統計データとは
- 第6回 経済統計データの検索と入手
- 第7回 経済統計データの整理・グラフ化
- 第8回 記述統計手法（平均・分散）
- 第9回 記述統計手法（相関・回帰）
- 第10回 記述統計手法（クロス集計）
- 第11回 人口・労働データの分析
- 第12回 物価・企業データの分析
- 第13回 景気指標・ビジネスサーベイの分析
- 第14回 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 10% 出席 40%
出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I b 02 <春>	
麻 生 憲 一	2単位

【講義概要】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】

情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
- 第2回 行政機関の経済情報へのアクセス
- 第3回 統計資料・調査レポートへのアクセス
- 第4回 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
- 第5回 経済統計データとは
- 第6回 経済統計データの検索と入手
- 第7回 経済統計データの整理・グラフ化
- 第8回 記述統計手法（平均・分散）
- 第9回 記述統計手法（相関・回帰）
- 第10回 記述統計手法（クロス集計）
- 第11回 人口・労働データの分析
- 第12回 物価・企業データの分析
- 第13回 景気指標・ビジネスサーベイの分析
- 第14回 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

試験 50% レポート 10% 出席 40%
出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】

授業中、その都度指示をする。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I b 03 <春>	
井田 憲 計	2単位

【講義概要】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】

情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
- 第2回 行政機関の経済情報へのアクセス
- 第3回 統計資料・調査レポートへのアクセス
- 第4回 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
- 第5回 経済統計データとは
- 第6回 経済統計データの検索と入手
- 第7回 経済統計データの整理・グラフ化
- 第8回 記述統計手法（平均・分散）
- 第9回 記述統計手法（相関・回帰）
- 第10回 記述統計手法（クロス集計）
- 第11回 人口・労働データの分析
- 第12回 物価・企業データの分析
- 第13回 景気指標・ビジネスサーベイの分析
- 第14回 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

試験 40% レポート 30% 出席 30%
[中間レポート]教務課へ提出（1回）、[出席点]毎回の出席と講義時間中の課題提出（不定期）、[試験]コンピュータを利用した課題、となる予定。

【教科書】

特に指定しない。講義用のWebサイト（ホームページ）を利用し、必要に応じてプリント等を配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習 I b 04 <春>	
村松 郁 夫	2単位

【講義概要】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】

情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
- 第2回 行政機関の経済情報へのアクセス
- 第3回 統計資料・調査レポートへのアクセス
- 第4回 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
- 第5回 経済統計データとは
- 第6回 経済統計データの検索と入手
- 第7回 経済統計データの整理・グラフ化
- 第8回 記述統計手法（平均・分散）
- 第9回 記述統計手法（相関・回帰）
- 第10回 記述統計手法（クロス集計）
- 第11回 人口・労働データの分析
- 第12回 物価・企業データの分析
- 第13回 景気指標・ビジネスサーベイの分析
- 第14回 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 60% 出席 40%

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習Ⅰ b 05 <春>	
義 永 忠 一	2単位

【講義概要】

経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】

情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】

- 第1回 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
- 第2回 行政機関の経済情報へのアクセス
- 第3回 統計資料・調査レポートへのアクセス
- 第4回 地域と企業活動に関する経済情報源の検索
- 第5回 経済統計データとは
- 第6回 経済統計データの検索と入手
- 第7回 経済統計データの整理・グラフ化
- 第8回 記述統計手法（平均・分散）
- 第9回 記述統計手法（相関・回帰）
- 第10回 記述統計手法（クロス集計）
- 第11回 人口・労働データの分析
- 第12回 物価・企業データの分析
- 第13回 景気指標・ビジネスサーベイの分析
- 第14回 国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】

レポート 30% 出席 70%

【教科書】

オリジナル資料をコピーして配布します。

【参考文献】

適宜、指示します。

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理演習Ⅱ <通期>	
村 松 郁 夫	4単位

【講義概要】

経済分析におけるコンピュータ活用法について演習を行う。コンピュータ操作に関する基礎知識を身につけた学生を対象とした講義であるので、経済情報処理演習Ⅰなどの科目を修得していることが望ましい。

【学習目標】

経済や経営に関する統計データは、html形式、csv形式、excelファイルなど、さまざまな形態で配布されている。これらのデータから必要な情報を抽出し、目的にかなったアプリケーションで分析処理するためには、データ処理のためのプログラミング技法と分析手法についての知識が必要となる。本講義では、この2つについての知識を深め、実用的に使いこなせるレベルに到達することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回 プログラミングの基礎知識
- 第2回 データ形式
- 第3回 数、文字列
- 第4回 変数の型と利用
- 第5回 配列変数
- 第6回 計算、演算
- 第7回 関数
- 第8回 条件、分岐処理
- 第9回 反復処理
- 第10回 サブルーチン
- 第11回 ファイルの入出力
- 第12回 データの抽出
- 第13回 正規表現の基礎
- 第14回 検索
- 第15回 置換
- 第16回 記述統計の手法
- 第17回 母集団、標本、サンプリング
- 第18回 ヒストグラム
- 第19回 平均、分散
- 第20回 共分散、相関係数
- 第21回 確率モデル、確率変数、確率分布
- 第22回 期待値、分散、共分散
- 第23回 推測統計の手法
- 第24回 推定
- 第25回 検定
- 第26回 企業財務データを用いた統計分析
- 第27回 金融計算シミュレーション（複利計算、割引計算）
- 第28回 株価データの処理
- 第29回 株式ポートフォリオ
- 第30回 株式投資シミュレーション

【成績評価の方法】

試験 0% レポート 60% 出席 40%

科目名 クラス 講義区分	
経済情報処理論 <秋集>	
荒木 英一	4単位

【講義概要】

経済学部生のための情報処理基礎を講義します。つまり、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説します。

【学習目標】

講義の目標は、コンピュータやネットワークの基本的な仕組みをおさえて「賢く正しい」使い方を身につけること、経済学（社会科学）学習へコンピュータを活用していく手がかりをつかんでもらうことです。

【講義計画】

- 第1回 コンピュータとは（コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能）
- 第2回 情報社会とコンピュータ
- 第3回 コンピュータによる情報の表現
- 第4回 コンピュータによる計算の仕組み
- 第5回 コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置
- 第6回 パーソナルコンピュータの仕組み
- 第7回 ソフトウェアの構成
- 第8回 オペレーティングシステム
- 第9回 アプリケーションソフトウェア（1）
- 第10回 アプリケーションソフトウェア（2）
- 第11回 アプリケーションソフトウェア（3）
- 第12回 コンピュータ・ネットワーク（1）
- 第13回 コンピュータ・ネットワーク（2）
- 第14回 コンピュータ・ネットワーク（3）
- 第15回 学内の情報環境について
- 第16回 経済学の研究・学習とコンピュータ1（インターネット資源の活用）
- 第17回 経済学の研究・学習とコンピュータ2（統計処理）
- 第18回 経済学の研究・学習とコンピュータ3（シミュレーション）
- 第19回 プログラミング言語の種類と特徴
- 第20回 アルゴリズムと流れ図
- 第21回 プログラミングの基礎（1. データの型と構造）
- 第22回 プログラミングの基礎（2. 反復処理と条件分岐）
- 第23回 プログラミングの基礎（3. 関数とライブラリ）
- 第24回 プログラミングの基礎（4. 効率的アルゴリズムの選択と設計）
- 第25回 プログラミングの基礎（5. データの整列法）
- 第26回 プログラミングの基礎（6. 線形探索と二分探索法）
- 第27回 計測と制御
- 第28回 経済学とコンピュータ

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%

【参考文献】

すべての講義資料と実習用教材は担当者の Web サイトにて参照可能。
<http://rio.andrew.ac.jp/araki/>

科目名 クラス 講義区分	
経済数学 <秋集>	
三原 裕子	4単位

【講義概要】

本講義では経済学を理解する上で、最低限必要な数学および応用問題を解くために必要となる数学の知識を学ぶことを目的とします。経済学では、どの主体（消費者、企業、政府）のどのような行動に注目するかによって、必要となる数学の知識が異なります。さらに、連立方程式の解を求めるために、代入法、加減法、行列という3つの方法を用いても同じ解が導き出せるのと同様に、ある1つの結論を導くためにその方法として、複数の数学的な手法が存在する事があります。よって、経済学をより深く理解するためには、自分自身が使える「数学の知識」という引出しをより多く持つておくことは非常に有益であり、時と場合によってどの引出しをあけて使うか、という判断が的確に出来なければなりません。そこで本講義では、この引き出しを増やすべく、経済学で必要となる数学的な手法を幅広く勉強していきます。

【学習目標】

本講義の目標は、経済学の基礎からある程度の応用にまで対応できるように、数学の知識を養い、かつ理論的に分析できる力も同時に付けていくことを目標とします。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンスおよびアンケート
- 第2回 方程式と関数
- 第3回 連立方程式の復習
- 第4回 連立方程式を用いた経済学の応用例
- 第5回 連立方程式を用いた経済学の応用例
- 第6回 関数とは？
- 第7回 経済学で登場する主な関数
- 第8回 一変数関数の微分法
- 第9回 一変数関数の微分を用いた経済学での応用例
- 第10回 一変数関数の微分を用いた経済学での応用例
- 第11回 多変数関数の微分法（偏微分）
- 第12回 偏微分を用いた経済学での応用例
- 第13回 他変数関数の微分法（全微分）
- 第14回 全微分を用いた経済学での応用例
- 第15回 合成関数の微分法
- 第16回 合成関数を用いた経済学での応用例
- 第17回 ラグランジュ乗数法
- 第18回 ラグランジュ乗数法による最適制御問題
- 第19回 ラグランジュ乗数法による最適制御問題
- 第20回 確率
- 第21回 確率を用いた経済学での応用例
- 第22回 差分方程式
- 第23回 差分方程式
- 第24回 差分方程式を用いた経済学での応用例
- 第25回 差分方程式を用いた経済学での応用例
- 第26回 行列
- 第27回 行列を用いた経済学での応用例
- 第28回 経済学（ミクロ経済学、マクロ経済学）の総まとめとしての問題演習

【成績評価の方法】

試験 80% レポート 0% 出席 20%
 試験の内訳として、小テスト、中間テスト、学期末試験を予定しています。また、これとは別に宿題を課すことがありますが、こちらは提出をもって小テストと同じ扱いにします。

【参考文献】

E. ドウリング著 大住栄治/川島康男訳 『入門例題で学ぶ経済数学』CPE出版株式会社 2004年
 矢野健太郎・石原繁編 『微分積分』 裳華房 1991年

【備考】

テキスト指定はしません。代わりにレジメを適宜配布します。

科目名 クラス 講義区分	
経済政策 <春集>	
津田直則	4単位

【講義概要】

講義概要：経済政策は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野です。制度やシステムレベルの議論では経済体制論になります。またマクロやミクロの経済理論と関係してくる政策論もあります。最初は経済政策思想や経済体制論を取り上げ、授業の後半では、経済政策の各論や日本経済における具体的な政策問題を扱います。

【学習目標】

学習目標：経済政策論の背景には思想や理論があること、また、思想や理論に関する見解の相違がどのように経済政策論に反映するかを理解できるようにします。2009年度は、世界的不況の広がりの行く末と、世界文明が転換していく問題を経済体制論としていくつもの章で大きく取り上げます。

【講義計画】

- 第1回 講義の年間スケジュールと現代社会の歴史の意味を説明し第1章の経済政策の課題へとつなぐ。
- 第2回 第1章 現代経済と経済政策論の課題
- 第3回 第2章 新自由主義とアメリカ経済1 新自由主義思想
- 第4回 第2章 新自由主義とアメリカ経済2 アメリカ経済の実態
- 第5回 第2章 新自由主義とアメリカ経済3 金融恐慌と世界不況
- 第6回 第3章 新しい経済体制1 3つの危機と新しい経済体制の方向
- 第7回 第3章 新しい経済体制2 非営利セクター
- 第8回 第3章 新しい経済体制3 協同組合
- 第9回 第3章 新しい経済体制4 協同組合その他の非営利組織
- 第10回 第3章 小テスト
- 第11回 第4章 市場機構と経済政策1 ミクロ経済学と効率
- 第12回 第4章 市場機構と経済政策2 市場の失敗と経済政策
- 第13回 第4章 市場機構と経済政策3 マクロ経済理論と財政金融政策
- 第14回 第4章 市場機構と経済政策4 経済理論と経済政策の誤り
- 第15回 第5章 日本経済と経済政策1 日本の財政構造と金融秩序
- 第16回 第5章 日本経済と経済政策2 ケインズ派と新古典派の論争
- 第17回 第5章 日本経済と経済政策3 ケインズ派と新古典派の論争
- 第18回 第5章 日本経済と経済政策4 雇用と政策
- 第19回 第5章 日本経済と経済政策5 雇用と政策
- 第20回 小テスト
- 第21回 第6章 資源・エネルギー・環境・食料問題1 問題の全体像
- 第22回 第6章 資源・エネルギー・環境・食料問題2 歴史的経緯と実態
- 第23回 第6章 資源・エネルギー・環境・食料問題3 歴史的経緯と実態
- 第24回 第6章 資源・エネルギー・環境・食料問題4 政策的課題
- 第25回 第7章 新しい経済体制と地域社会1 3つの危機と地域社会
- 第26回 第7章 新しい経済体制と地域社会2 南大阪地域社会の再生構想
- 第27回 第7章 新しい経済体制と地域社会3 地域再生の国際モデル
- 第28回 講義の振り返りまたは期末テスト

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 10% 出席 0%
小テストを2回行い評価に加味します。D評価または小テスト欠席者にはレポート提出の機会がありますが、評価は最小限です。

【教科書】

なし

【参考文献】

授業資料は授業中に配布します

科目名 クラス 講義区分	
経済成長論 <秋集>	
西川憲二	4単位

【講義概要】

世界をみると、多数の経済的に貧しい国々と少数の豊かな国が存在する。この事実から豊かになることが如何に困難であるかがわかる。なぜ世界に貧しい国と豊かな国が現存するのか、その理由を歴史の観点からと、経済理論の観点から考察する。

【学習目標】

経済発展の歴史的背景と、経済成長理論の基礎を修得することを学習目的とする。

【講義計画】

- 第1回 経済成長とは
- 第2回 経済覇権の歴史概括
- 第3回 中世から近代へ1
- 第4回 中世から近代へ2
- 第5回 遠隔地商業の発達
- 第6回 大航海
- 第7回 ポルトガルの繁栄
- 第8回 スペインの繁栄
- 第9回 オランダの繁栄
- 第10回 フランスの繁栄
- 第11回 ドイツの繁栄
- 第12回 イギリスの繁栄
- 第13回 イギリスの外交戦略
- 第14回 イギリスの産業革命
- 第15回 アメリカ合衆国の繁栄
- 第16回 経済成長は必要か
- 第17回 経済成長の定義
- 第18回 経済力の測定方法
- 第19回 日本のGDPの構成
- 第20回 経済成長の歴史的事実に関する7つの特徴
- 第21回 労働増加型技術進歩
- 第22回 先進国での技術進歩の概要
- 第23回 知的財産権
- 第24回 GDPの決定メカニズム
- 第25回 所得・支出分析
- 第26回 フローとストック
- 第27回 恒常成長経路
- 第28回 経済発展のパターン

【成績評価の方法】

1回の小テストと2回のレポート(各10点満点)と期間内試験(100点満点)の合計で、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、60点未満をDとする。

【参考文献】

キンドルバーガー「経済大国興亡史」岩波書店、2002年
サムエルソン・ノードハウス「サムエルソン経済学」岩波書店
後藤晃「イノベーションと日本経済」岩波新書、2000年

科目名 クラス 講義区分	
経済地理学 <通期>	
安 倉 良 二	4 単位

【講義概要】

テーマ：「産業立地からみた地域変容」

本講義では、経済活動に深く関わる産業立地に着目し、それに伴う地域変容について、第一～三次産業別に説明することを目的とする。講義では、各産業の立地に留まらず、その活動舞台である農山村や都市地域でみられる諸問題も積極的に取り上げる予定である。なお、前期では農業・農山村地域と工業、後期は都市地域と商業・サービス業を取り上げる予定である。

【学習目標】

本講義では、毎回解説および理解の一助となる図表類を盛り込んだレジュメを配布しながら進める。本講義を受講することによって、地域経済で取り上げられるトピックの多くは経済地理学と密接に関わっているのがよくわかるようになるはずである。なお、以下の授業計画は受講者数が少なく、期間外試験を行うことになった場合は回数が減ることもあり得る。

【講義計画】

- 第1回 講義に関するガイダンスー「経済地理学」とは？ー
- 第2回 農業①ー日本における農業地域構造の変化ー
- 第3回 農業②ー輸入農産物の増加と国内外の産地変容(1)ー
- 第4回 農業③ー輸入農産物の増加と国内外の産地変容(2)ー
- 第5回 農業④ー農産物の地域ブランド化ー
- 第6回 農山村地域の变容①ー「周辺地域論」からみた農山村の地域経済ー
- 第7回 農山村地域の变容②ー地域振興の方向性ー
- 第8回 日本における地域開発政策の変遷
- 第9回 工業①ー自動車産業ー
- 第10回 工業②ー電気・電子機械産業ー
- 第11回 工業③ー石油化学工業ー
- 第12回 工業④ーウエーバーの工業立地論の適用ー
- 第13回 工業⑤：中小工業(1)ー伝統産業・地場産業の存立基盤ー
- 第14回 工業⑥：中小工業(2)ー大都市における「町工場」の立地と産業地域社会ー
- 第16回 都市群システムー都市階層からみた企業の支所配置を中心にー
- 第17回 オフィスの立地再編①ー大都市におけるオフィス立地の变化ー
- 第18回 オフィスの立地再編②ー情報化の進展に伴うオフィスの立地再編ー
- 第19回 大都市における地価変動とそのインパクト
- 第20回 ディベロッパー（不動産業者）による住宅とビルの開発
- 第21回 商業①ー『商業統計』からみた「業種」と「業態」ー
- 第22回 商業②ー日本における大型店立地政策の変遷ー
- 第23回 商業③ー中心市街地（商店街）の盛衰とその再生ー
- 第24回 商業④ー都市郊外における商業集積とゾーニングー
- 第25回 商業⑤ー都市内部における食料品小売業の立地再編ー
- 第26回 商業⑥ー百貨店・スーパーの再編成ー
- 第27回 商業⑦ーコンビニの再編成ー
- 第28回 商業⑧ー海外における小売業者（グローバルリテイラー）ー

【成績評価の方法】

試験 100%

前期と後期に行う試験で評価する。試験は論述式を採用し、各テーマについて基本的な項目がどれだけ理解できているのかを重視する。

【参考文献】

テキストは用いず、参考文献は適宜紹介する予定である。なお、現時点で経済地理学で取り上げられる内容を簡潔に解説した参考書として以下の書物をあげる。興味のある方は一読を勧めたい。

1. 竹内淳彦編（2008）：『日本経済地理読本（第8版）』東洋経済新報社
2. 川端基夫（2008）：『立地ウォーザー企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」ー』新評論

科目名 クラス 講義区分	
経済統計 <通期>	
浦 出 俊 和	4 単位

【講義概要】

経済を分析する上で、経済理論はもちろんのこと、必要な経済統計データとその分析手法についての基礎知識が必要不可欠である。

本講義では、多種多様な経済統計データの基礎知識を身に付けること、例えば、どのようなデータが存在するのか、どのように作成されたのか、どのような性質を有しているのかについて講義する。次に、経済分析のための初歩的な処理・分析手法も学習する。

本講義では、実際にパソコンを用いて、経済統計データの入手・加工・分析を授業中に行ってもらう予定なので、受講生は、パソコンの基本操作はもちろんのこと、Excelを使えることが望ましい。

【学習目標】

経済分析において、適切な経済統計データの選択および基本的な処理・分析手法を身に付けることが目標である。

【講義計画】

- 第1回 経済統計とは？ーイントロダクションー
- 第2回 経済統計の種類と分類
- 第3回 経済統計の作成過程
- 第4回 統計分類
- 第5回 統計の真実性
- 第6回 人口統計(1)
- 第7回 人口統計(2)
- 第8回 家計に関する統計(1)
- 第9回 家計に関する統計(2)
- 第10回 食料統計(1)
- 第11回 食料統計(2)
- 第12回 物価統計(1)
- 第13回 物価統計(2)
- 第14回 労働統計(1)
- 第15回 労働統計(2)
- 第16回 産業統計(1)
- 第17回 産業統計(2)
- 第18回 産業統計(3)
- 第19回 企業統計(1)
- 第20回 企業統計(2)
- 第21回 国民経済(1)
- 第22回 国民経済(2)
- 第23回 国民経済(3)
- 第24回 産業連関(1)
- 第25回 産業連関(2)
- 第26回 産業連関(3)
- 第27回 景気統計(1)
- 第28回 景気統計(2)

【成績評価の方法】

レポート 50% 出席 50%

毎回出席を取る予定である。

レポートは、半期で数回を予定している。

試験を実施しないので、出席点とレポート評価によって、成績評価する。

【教科書】

御園謙吉・良永康平編 よくわかる統計学Ⅱ経済統計編 ミネルヴァ書房

科目名 クラス 講義区分	
経済法 <通期>	
牛丸 與志夫	4単位

【講義概要】

独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。講義では、①テキスト、②独禁法判決・審決判例百選を常時、携帯すること。

【学習目標】

講義では、独占禁止法の基本的知識と応用力の取得を目標とするものである。

【講義計画】

- 第1回 独占禁止法の目的・構成と手続きー 独占禁止法の基礎概念
- 第2回 公正取引委員会の組織と構成
- 第3回 行政的救済ー違反事件の処理手続
- 第4回 刑事制裁
- 第5回 民事上の救済手段
- 第6回 私的独占の禁止
- 第7回 カルテルの規制
- 第8回 カルテルの形態
- 第9回 国際カルテルの規制
- 第10回 事業者団体の活動規制(1)
- 第11回 事業者団体の活動規制(2)
- 第12回 行政指導とカルテル
- 第13回 カルテルの適用除外
- 第14回 価格の同調的引上げの理由報告制度
- 第15回 結合・集中規制ー合併
- 第16回 分割・役員兼任等
- 第17回 独占的地位に対する措置
- 第18回 不公正な取引方法の概説
- 第19回 排他条件付取引
- 第20回 再販売価格の拘束
- 第21回 拘束条件付取引
- 第22回 不当な差別的取扱い
- 第23回 不当対価
- 第24回 不当な顧客誘引・強制一欺まん的顧客誘引
- 第25回 抱き合わせ販売
- 第26回 取引上の地位の不当利用
- 第27回 競争者の事業活動の不当妨害
- 第28回 知的財産権と独占禁止法
- 第29回 政府規制と独占禁止法
- 第30回 国際取引と独占禁止法

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%
期末試験で評価する。

【教科書】

岸井大太郎その他4名 経済法ー独占禁止法と競争政策(第5版補訂)有斐閣
厚谷襄児・稗貫俊文編 独禁法審決・判例百選(第6版)有斐閣

科目名 クラス 講義区分	
刑事訴訟法 <秋集>	
大久保 正人	4単位

【講義概要】

新聞やテレビなどで報道される刑事事件の数々は、「捜査の端緒」「捜査」「公訴提起」「公判手続」「裁判(判決)」「刑の執行」という、刑事訴訟法が規定する手続の流れに沿って処理されています。

刑事訴訟法の目的は、人権を保障しながら真実を発見することにあります。ここに「真実発見」という利益と「人権保障」という利益は、本来、相容れない性質を有することから、この利益の対立が、刑事手続における理論と現実の「溝」を生み出しています。

本講義においては、「真実発見」と「人権保障」という利益の対立構造を理解し、それらを合理的に調和させる方法について学習します。

【学習目標】

本講義は、刑事訴訟法を初めて学ぶ学生を対象として、法の「全体像」を把握することを目標とします(細かい「論点」の研究は行いません)。

毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】

- 第1回 刑事訴訟法・入門(1)
- 第2回 刑事訴訟法・入門(2)
- 第3回 刑事訴訟法・入門(3)
- 第4回 刑事訴訟法・入門(4)
- 第5回 刑事訴訟法・入門(5)
- 第6回 捜査(1) 捜査の原則
- 第7回 捜査(2) 捜査の端緒
- 第8回 捜査(3) 身柄の確保
- 第9回 捜査(4) 供述証拠の獲得
- 第10回 捜査(5) 物的証拠の収集 ①
- 第11回 捜査(6) 物的証拠の収集 ②
- 第12回 捜査(7) 被疑者の防御権
- 第13回 公訴提起(1) 被疑者から被告人へ
- 第14回 公訴提起(2) 訴因と公訴事実
- 第15回 公判手続(1) 総論
- 第16回 公判手続(2) 証拠 ① 総説
- 第17回 公判手続(3) 証拠 ② 要件(A)
- 第18回 公判手続(4) 証拠 ③ 要件(B)
- 第19回 公判手続(5) 証拠 ④ 伝聞
- 第20回 公判手続(6) 証拠 ⑤ 自白
- 第21回 裁判
- 第22回 刑の執行(1) 刑罰制度・犯罪者の処遇
- 第23回 刑の執行(2) 死刑
- 第24回 総合(1) 裁判員制度 ① 基礎知識編
- 第25回 総合(2) 裁判員制度 ② 実践編
- 第26回 総合(3) 少年審判手続・精神障害者の処遇
- 第27回 総合(4) その他
- 第28回 おわりに(1) 総復習 ①
- 第29回 おわりに(2) 総復習 ②
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100%
原則として「試験」のみで評価する予定ですが、状況によっては、「出席」を考慮する可能性もあります。

【教科書】

渡辺咲子 刑事訴訟法講義(第5版)不磨書房

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

科目名	クラス	講義区分
刑法各論 <秋集>		
担当者未定	4単位	

【講義概要】

刑法?と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な(退屈な?)学問です。

刑法各論とは、個別の犯罪を規定している各刑罰法規の解釈を内容とする学問です。各犯罪の構成に関する議論を通じて刑法各論を理解し、法的思考能力、さらには幅広い視野から問題を考察し解決する能力を培うことを目的とします。

【学習目標】

刑法各論は、総論に比べ具体的であり、学生にとっても理解し易いかと思います。しかし、細かい論点で難解であることは各論も変わりません。これも、一歩間違えば重大な人権侵害となり得る刑罰の峻厳さからくるのであり、刑罰を科すことが場当たりのなされたら大変なことになってしまうからです。また、刑法各論は、論点が多いため、詰め込みになってしまうかもしれませんが、各犯罪ごとに問題は完結しますので、毎回新鮮な気持ちで受講し、刑法学・各論の理解を深めることを目指します。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 刑法による生命の保護(1)－殺人罪－
- 第3回 刑法による生命の保護(2)－自殺関与・同意殺人罪－
- 第4回 身体に対する罪(1)
- 第5回 身体に対する罪(2)
- 第6回 生命・身体に対する危険犯(1)－墮胎罪－
- 第7回 生命・身体に対する危険犯(2)－遺棄罪－
- 第8回 自由に対する罪(1)－脅迫・強要罪・逮捕・監禁罪－
- 第9回 自由に対する罪(2)－略取誘拐罪・性犯罪－
- 第10回 個人の私的領域を侵す罪－住居侵入罪・秘密漏示罪－
- 第11回 社会的存在としての人の保護(1)－名誉毀損罪－
- 第12回 社会的存在としての人の保護(2)－業務妨害罪－
- 第13回 財産の刑法的保護(1)－財産犯の客体－
- 第14回 財産の刑法的保護(2)－財産犯の保護法益－
- 第15回 財産の刑法的保護(3)－不法領得の意思－
- 第16回 窃盗罪(1)
- 第17回 窃盗罪(2)
- 第18回 器物損壊罪
- 第19回 強盗罪(1)
- 第20回 強盗罪(2)
- 第21回 強盗罪(3)
- 第22回 詐欺罪(1)
- 第23回 詐欺罪(2)
- 第24回 恐喝罪
- 第25回 横領罪・背任罪(1)
- 第26回 横領罪・背任罪(2)
- 第27回 横領罪・背任罪(3)
- 第28回 盗品等関与罪
- 第29回 試験
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
試験を行います。また、出席をとりますが、それは、3分の1以上欠席した者に対して大幅に減点するために用います。

【教科書】

井田良『刑法各論・新論点講義シリーズ2』(2007年) 弘文堂
井田良ほか『よくわかる刑法』(2006年) ミネルヴァ書房

【参考文献】

西田典之『刑法各論・第4版』(弘文堂、2007年)
山口厚『刑法各論・補訂版』(有斐閣、2005年)
西田=山口=佐伯編『刑法判例百選II各論』(有斐閣、2008年)
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第3版』(有斐閣、2005年)

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
刑法総論 <春集>		
南 由 介	4単位	

【講義概要】

刑法?と聞くと、面白そう、と思う人も多いかと思いますが、実際は、複雑で緻密で抽象的な(退屈な?)学問です。

刑法総論とは、難しくいうと、犯罪と刑罰の基礎理論であり、すべての犯罪に共通して妥当する理論のことです。講義内容が抽象的になるかもしれませんが、刑法を考察することによって刑法学を理解することのみならず、法的思考能力、さらには幅広い視野に立ち問題を解決する能力を培うことが可能になると考えています。

【学習目標】

刑法学は、話が細かい、面白くない、と指摘されることがあります。しかし、難しいという感想で終わらず、何故、このように複雑で抽象的であるのかを是非考えてください。刑罰を科すということは、人の人生を変えることを意味しますので、それが場当たりのなされたら大変なことになってしまいます。学説の背後にあるそのようなものにまで思い巡らしながら、刑法学・総論を理解することを目指します。

【講義計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 刑法と道徳
- 第3回 罪刑法定主義
- 第4回 責任主義
- 第5回 刑法の解釈
- 第6回 結果無価値論と行為無価値論
- 第7回 刑法の適用(効力)
- 第8回 構成要件要素
- 第9回 不真正不作为犯
- 第10回 因果関係(1)－条件関係－
- 第11回 因果関係(2)－相当因果関係－
- 第12回 故意(1)
- 第13回 故意(2)－未必の故意－
- 第14回 事実の錯誤(1)－具体的事実の錯誤－
- 第15回 事実の錯誤(2)－抽象的事実の錯誤－
- 第16回 過失(犯)(1)
- 第17回 過失(犯)(2)－管理・監督過失－
- 第18回 可罰的違法性(論)
- 第19回 正当防衛
- 第20回 緊急避難
- 第21回 自己決定権・安楽死と尊厳死
- 第22回 責任能力
- 第23回 実行の着手
- 第24回 不能犯
- 第25回 正犯と共犯
- 第26回 共同正犯
- 第27回 共犯の従属性
- 第28回 従犯(幫助犯)
- 第29回 試験
- 第30回 試験

【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%
出席はとりません。試験の点数のみで評価します。

【教科書】

井田良=丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第2版』(2004年) 日本評論社
井田良ほか『よくわかる刑法』(2006年) ミネルヴァ書房

【参考文献】

井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣、2008年)
西田典之『刑法総論』(弘文堂、2006年)
山口厚『刑法総論・第2版』(有斐閣、2007年)
西田=山口=佐伯編『刑法判例百選I総論』(有斐閣、2008年)
井田良『基礎から学ぶ刑事法・第3版』(有斐閣、2005年)

【備考】

<02~05生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
刑法入門 <春>	
大久保 正 人	2単位

【講義概要】

マスメディアによる連日の犯罪報道などから、「犯罪」に対して怒りや不安を覚え、犯罪と刑罰を規定する「刑法」や、刑法を手続的に実現する「刑事訴訟法」に対して興味を抱いた学生は多いでしょう。また、「犯罪はどうして発生するのか」、「犯罪をどのように防止（抑止）すべきなのか」、「犯罪（者）にどのように対応すべきであるのか」など、「刑事政策」的な視点から自問した学生もいるでしょう。

刑法入門においては、これから「刑法（総論・各論）」「刑事訴訟法」等の専門科目を本格的に履修する前段階として、刑事法の全体像を幅広く学習することを通して、その基礎となる知識・感覚を習得していきます。

【学習目標】

本講義は、刑法（刑事法）を初めて学ぶ学生を対象として、専門的に「刑法総論」「刑法各論」「刑事訴訟法」を履修するのに際して必要となる「基礎知識」「法的感覚」を習得することを目標にします（細かい「論点」の研究は行いません）。

毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】

- 第1回 はじめに（刑事法の世界）
- 第2回 刑法総論（1）
- 第3回 刑法総論（2）
- 第4回 刑法総論（3）
- 第5回 刑法各論（1）
- 第6回 刑法各論（2）
- 第7回 刑法各論（3）
- 第8回 刑法各論（4）
- 第9回 刑事訴訟法（1）
- 第10回 刑事訴訟法（2）
- 第11回 刑事訴訟法（3）
- 第12回 刑事訴訟法（4）
- 第13回 刑事政策
- 第14回 おわりに（総復習）
- 第15回 試験

【成績評価の方法】

試験 100% 出席 100%

原則として「試験」のみで評価しますが、欠席日数に応じて、試験の点数から「減点」を行う予定です。

【教科書】

井田良 基礎から学ぶ刑事法（第3版）有斐閣

【参考文献】

必要に応じて紹介します。

【備考】

〔09J生〕のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
計量経済学 <春集>	
荒 木 英 一	4単位

【講義概要】

現実世界のデータを分析して、ある主張が間違っていないかどうかを検証したり、あるいは将来の経済の動きを予測したりするのが、計量経済学の目的です。この講義では、コンピュータ（表計算ソフトと統計ソフト）を活用しながら、まず、データ処理の基本の基本からはじめて、いくつかの分析手法を学びます。ひととおりの基礎知識を習得した後に、具体的な経済分析例を紹介します。学歴・人種・性別による賃金差別は存在するか、死刑制度は凶悪犯罪の抑制に効果を持つか、世界・地域における貧富格差は解消に向かうか・拡大していくか、失われた10年を経て日本経済に起きた構造変化とは何だったのかといった問題を、データに基づいて実証的に考察してみましよう。

【学習目標】

- (1) 計量経済分析の基本知識を身につけること
- (2) 表計算ソフト（Excel）をデータ分析へ活用する手法を身につけること
- (3) 統計ソフト（R）の基本操作を身につけること

【講義計画】

- 第1回 平均・分散
- 第2回 度数分布
- 第3回 散布図、相関係数
- 第4回 回帰分析とは何か
- 第5回 最小二乗法の公式
- 第6回 単回帰の活用例いろいろ
- 第7回 決定係数と単回帰分析のまとめ
- 第8回 重回帰分析
- 第9回 推計結果の評価
- 第10回 要因分解
- 第11回 確率分布（1）
- 第12回 確率分布（2）
- 第13回 区間推定の演習
- 第14回 統計的検定の考え方
- 第15回 統計ソフトの基本操作（1）
- 第16回 統計ソフトの基本操作（2）
- 第17回 回帰における統計的推論（1）
- 第18回 回帰における統計的推論（2）
- 第19回 t 検定の演習
- 第20回 ダミー変数
- 第21回 応用分析（1）ビデオ教材導入の効果
- 第22回 応用分析（2）大卒と高卒の賃金格差
- 第23回 応用分析（3）平均寿命の国際比較
- 第24回 応用分析（4）死刑制度は凶悪犯罪を抑制するか
- 第25回 応用分析（5）人種・性別賃金格差は存在するか
- 第26回 応用分析（6）対数変換、需要関数の推計
- 第27回 応用分析（7）収束仮説の検証
- 第28回 応用分析（8）構造変化の検証

【成績評価の方法】

試験 60% 出席 40%

【参考文献】

すべての講義資料と実習用教材は、担当者の個人 Web サイトで参照可能。

<http://rio.andrew.ac.jp/araki/>

科目名 クラス 講義区分	
原価計算システム <春>	
坂手 恭介	2単位

【講義概要】

「製品原価」の計算をするための「基礎・入門」に重点を置く。
 ①まず、日常的な営業、企業活動の切り口との関連で原価計算のイメージが湧くようにガイドする。つづいて、ヒト、モノ、サービスの消費が原価として把握されるプロセスを会計的な仕組のなかで理解し表現できるように、問題を解きながら習熟させる。③この段階で、市場取引の仕組みと製品生産の大まかな理解を得たうえで、製品別原価の計算について基礎力を涵養する。

【学習目標】

原価計算の基礎を習得し日本商工会議所主催の簿記検定試験2級の合格水準に到達すること。

【講義計画】

- 第1回 企業会計の基礎
- 第2回 原価と原価計算の基礎
- 第3回 材料費計算
- 第4回 労務費計算、経費計算
- 第5回 製造間接費計算
- 第6回 部門別原価計算
- 第7回 活動基準原価計算
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 その他の総合原価計算
- 第11回 標準原価計算(1)
- 第12回 標準原価計算(2)
- 第13回 直接原価計算(1)
- 第14回 直接原価計算(2)
- 第15回 総合演習(期末テスト)

【成績評価の方法】

期末テスト100%

【教科書】

加登豊編著 インサイト原価計算 中央経済社

か
行

○「健康・スポーツ学演習」の概要等について（08生以上）

【概要】

今日の機械文明の発達は、我々の生活を便利で豊かにした反面、文明病の発生、体力不足、人間疎外、自然破壊などの弊害をもたらし、人間としての大切な生命や健康をおびやかす結果を招いています。このような状況において、スポーツが果たす役割は多様化してきています。すなわち我々現代人には、実践者、監督者、企画者として、あるいはトータルマネージメントの素養が社会的に求められるようになってきています。

本学の「健康・スポーツ学演習」では、多様なニーズに応えるために、健康・スポーツ・マネジメントなどに関する理論と実技の統一的な研究・学習・実習によって、課題追求型、解決型、あるいは問題発見型の演習授業を行い、学生諸君の理論的・実践的能力の修得をめざします。

【履修方法】

1. 07生以上 <通期、4単位>

「健康・スポーツ学演習」は共通教養科目として位置づけられています。春学期・秋学期を通して（通期）、週一回の授業を行う4単位科目です。集中クラスについては、学内での半期の授業と学外での短期の集中授業からなります。履修登録は春学期予備登録期間中に春学期（2単位）と秋学期（2単位）を合せて通期（4単位）としての履修登録となります。<ペア履修>1年間に4単位の履修登録で、4年間で計16単位での重複履修が可能です。

履修に当たっては、春学期と秋学期を通して、同一曜日・時限の同一種目を履修してください。春学期と秋学期で異なる曜日・時限の種目・クラスを履修することはできません。

科目の詳細については、『授業時間割表』の「各種予備登録要領」を参照してください。

※「スノースポーツ」は集中クラスの科目で、秋学期に学内で毎週1回、所定の回数の授業を行い、2月中旬に学外で4泊5日の実習を行います。秋学期集中科目（4単位）として履修登録をしますので、「スノースポーツ」を履修した場合、春学期開講の他の「健康・スポーツ学演習」は、履修できません。

2. 08生<半期、2単位>

「健康・スポーツ学演習」は共通教養科目として位置づけられています。春学期または秋学期に、週一回の授業を行う2単位科目です。集中クラスについては、学内での半期の授業と学外での短期の集中授業からなります。履修登録は春学期予備登録期間中に、春・秋学期開講分をまとめて登録します。1年間に2科目（4単位）まで履修登録できますが、半期で登録できるのは1科目（2単位）です。

科目の詳細については、『授業時間割表』の「各種予備登録要領」を参照してください。

※「スノースポーツ」は集中クラスの科目で、秋学期に学内で毎週1回、所定の回数の授業を行い、2月中旬に学外で4泊5日の実習を行います。秋学期集中科目（4単位）として履修登録をしますので、「スノースポーツ」を履修した場合、春学期開講の他の「健康・スポーツ学演習」は、履修できません。

【コース・種目と内容】

本演習のクラス編成にあたっては、スポーツの特性と学生諸君の多様なニーズに応えるため、次の6コースを設け、各種目を実施します。

A. 健康トレーニングコース

体力・運動能力を高めるための健康保持・体力養成クラスで、測定実習もふくめた理論の学習と、健康の自己管理能力を高めるためのウエルネスコースでもあります。

種 目	対 象	開 講 期 間	
		07生以上	08生
エアロビクス	男・女	通 期	半 期
ボディビルディング	休 講		

B. スポーツ文化コース

スポーツを文化としてとらえ、それぞれのスポーツ種目の特性と理論を理解するとともに、パフォーマンスの能力を高めるものです。

種 目	対 象	開 講 期 間	
		07生以上	08生
バレーボール、バスケットボール、水泳 テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ	男・女	通 期	半 期
サッカー、室内サッカー、ソフトボール、軟式野球	男		
剣道、柔道、ラグビー、アーチェリー 女子トリム・ソフトボール、ハンドボール	休 講		

※女子学生は、原則としてサッカー、ソフトボール、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーは受講できません。

※ゴルフは打球費(1回1,000円×10回=10,000円)とラウンド実習費(1回10,000円)が必要です。

C. シーズンスポーツコース

学内での半期の授業と、シーズンにあわせて実施する短期集中型での成果をめざすコースです。合宿などによる共同生活を体験し、社会性を養います。

種 目	対象	学内期間	集中期間	場 所	参加費
スノースポーツ (スノーボード、カービング スキー)	08生 以上 男・女	秋学期	2月中旬 (4泊5日)	長野県 戸隠スキー場	約35,000円 (リフト代含)
スケート	休 講				

※スノースポーツの履修者は参加費以外に、交通費、用具レンタル代などの経費が必要です。

※自由参加としての受講も可能です。

D. 障害者スポーツコース

主に身体虚弱者、身体障害者などを対象とし、個人の体力や能力に応じたスポーツや運動処方を学びます。

種 目	対 象	開 講 期 間	
		07生以上	08生
障害者スポーツ	男・女	休	講

※このコースを希望する学生は、事前に体育館事務室で相談してください。

E. レクリエーション・スポーツコース

生涯スポーツとして、あるいは楽しい健康生活のために、カヌーイング・ヨットなどの野外活動やニュースポーツを体験し、レクリエーションの理論と技術などの能力を獲得します。

種 目	対 象	学内期間	集中期間	場 所	参加費
集中レクリエーション・スポーツ (ウインドサーフィン・カヌー・ヨット)			休	講	

※ 参加費以外に交通費等が必要です。

種 目	対 象	開 講 期 間	
		07生以上	08生
ニューコンセプトスポーツ キンボール	男・女	通 期	半 期

F. スポーツ・トレーニングコース

このコースは、トレーニングに関心のある学生を対象とし、専門的にスポーツを実践し、指導するために必要なトレーニングの理論や方法を学習します。

種 目	対 象	開 講 期 間
スポーツトレーニング		休 講

〈演習受講に関する注意〉

(1) 成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価します。

(2) テキスト

必要に応じて指示します。

(3) 更 衣

指定された場所で更衣し、**貴重品は、各自ロッカーに保管して、必ず施錠してください。**

(4) 服 装

スポーツに適したウェア（水泳クラスは競泳用水着・水泳帽・ゴーグル）を着用すること。

(5) シューズ

グラウンドではグラウンド用シューズ（サッカーシューズ可）、テニスコートではテニスシューズ（運動靴可）、総合体育館・トレーニングルームでは上ばき（体育館シューズ）を着用してください。グラウンドと体育館との兼用は認めません。なお貸出用はありませんので、自分のものを持参してください。